

報告書

第6回

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019

選考会

2019年12月14日（土）

会場 明星大学 日野キャンパス

<2019年度 協力企業・機関>



福生市

はじめに

私達が暮らす、この多摩地域は恵まれた自然に加えて、多くの高等教育機関や研究開発企業が集まり、多摩地域全体を豊かにしています。一方で、近年に見られる都心回帰の影響や人口減少、少子高齢化の加速といった課題が残されています。今、こうした課題と向き合っていく学生を求めています。学生の視点や感性を活かし、多摩地域の魅力や課題を企画発信し、新しい価値を創造して多摩地域に活力を与えることができる企画を募集いたします。

学生の皆さんが、まちづくり・ものづくりの手法を学んで成長し、紡ぎだした新しいアイデアで産官学との連携で多摩地域活性化に繋げること。これが最大の狙いです。

本コンペティションでは、課題克服に寄与できることは重要なポイントですが、机上のプランから抜け出してフィールドワークの成果や日頃の研究を通じて、企業との連携事業や共同研究に繋げていく「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション」の新しい挑戦に期待します。

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

目次

はじめに.....	2
第1章 実施要領	5
第2章 選考会	9
出場団一覧/審査委員.....	10
開会挨拶/選考会の様子.....	12
表彰団体一覧.....	14
第3章 表彰団体 報告書	15
最優秀賞	
創価大学 安田ゼミ OMNIBUS 「外国人技能実習生の日本語能力向上を促進!～Japanative Project～」.....	16
優秀賞	
創価大学 安田ゼミ Amor 「誰もが地域とつながりを持てる社会へ」.....	28
創価女子短期大学 水元研究室 ショウガールズ 「はちおうじ生姜力」.....	41
第4章 出場団体概要	50
明星大学 28号館 4階	
401教室.....	51
402教室.....	56
405教室.....	61
406教室.....	66
第5章 講評・総評	71
講評/総評.....	72
副市長挨拶.....	76

第1章

実施要領

第6回

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019

実施要領

テーマ

学生アイデアによる地域活性化プロジェクト

目的

私達が暮らす、この多摩地域は恵まれた自然に加えて、多くの高等教育機関や研究開発企業が集まり、多摩地域全体を豊かにしています。一方で、近年に見られる都心回帰の影響や人口減少、少子高齢化の加速といった課題が残されています。今、こうした課題と向き合っていく学生を求めています。学生の視点や感性を活かし、多摩地域の魅力や課題を企画発信し、新しい価値を創造して多摩地域に活力を与えることができる企画を募集いたします。

学生の皆さんが、まちづくり・ものづくりの手法を学んで成長し、紡ぎだした新しいアイデアで産官学との連携で多摩地域活性化に繋げる。これが最大の狙いです。

本コンペディションでは、課題克服に寄与できることは重要ポイントですが、机上のプランから抜け出してフィールドワークの成果や日頃の研究を通じて、企業との連携事業や共同研究に繋げていく「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペディション」の新しい挑戦に期待します。

開催日

説明会 2019年 7月20日（土）10：00～12：00
選考会 2019年 12月14日（土） 9：30～17：00

説明会会場 明星大学 日野キャンパス 32号館2階206教室（日野市程久保2-1-1）
選考会会場 明星大学 日野キャンパス（〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1）
開会式 9：30～9：45 発表 10：00～12：00
ポスターセッション 13：00～14：20 審査会 14：30～15：30
表彰式・懇親会 15：30～17：00

エントリーカテゴリ

- ①まちづくり部門
- ②ものづくり部門

発表・審査について

- ・発表時間を10分以内、質疑応答は5分以内とする。なお、自己紹介等の時間は含まない。
- ・タイムオーバーは2点減点。
- ・エントリー団体はプレゼン発表とポスターセッションを両形式で行う。
- ・ポスターセッションで使用するポスターの大きさはA2サイズ2枚までとする。

審査の配点

[プレゼン発表部門]

① オリジナリティ	10点
② 調査分析力	10点
③ ビジネス展開力	
④ 事業継続性	20点
⑤ プレゼン力	10点
	計50点

[ポスター部門]

① 応答力	15点
② チーム力	15点
③ ビジュアライゼーション	10点
④ 説明力	10点
	計50点

団体への注意と連絡事項

- ・使用データを、12月6日（金）正午までに事務局（office@nw-tama.jp）に提出。
- ・期日後や当日のデータの差し替えは原則不可。差し替えた場合は審査無効とする。
- ・データ未提出の団体はコンペティションを辞退したとし、プレゼン発表は行えない。
- ・プレゼン発表は10分以内、タイムオーバーは2点減点。自己紹介等の時間は含まない。
- ・データ修正がある場合は、当日発表時間内で説明を行うこと。修正版（資料等）の形式は問わない。
- ・修正版資料を配布したい場合は、発表前に審査委員へ配布して下さい。
- ・1ゼミ・研究室（3団体）までのエントリーとし、学生団体は担当教職員の元で活動を行うこと。
- ・プレゼン発表で使用するファイルの形式は、Microsoft PowerPoint(16:9)で使用する。
- ・プレゼン発表では事務局が用意するPC（Windows10）で使います。
- ・エントリー団体はプレゼン発表と、ポスターセッション両形式で行うこと。
- ・事務局からの連絡は、団体代表者（学生）を通じて連絡をする。
- ・学生は結果発表懇親会まで参加とし、審査委員及び協力企業機関担当者との交流を図ること。
- ・懇親会費は審査委員を含む一般3,000円（1人）、学生は無料とする。※院生は3,000円とする。
- ・最優秀賞の団体は、次年度のコンペティションでトロフィー返還を行い、レプリカを贈呈する。
- ・最優秀賞、優秀賞に選ばれた団体は、2020年1月24日（金）までに報告書を事務局まで提出すること。

エントリー応募期間

2019年7月20日（土）～2019年11月15日（金）12：00（正午）締め切り

エントリー方法

- ① ホームページからエントリーシートをダウンロード
- ② office@nw-tama.jpへ提出

運営

主催 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
協力 株式会社立飛ホールディングス/株式会社ドコモCS多摩支店/エム・ケー株式会社/
福生市/明星大学

第2章

選考会

第6回

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019

2019年12月14日（土）

会場 明星大学 日野キャンパス

出場団体一覧

401教室（28号館4階）

1	亜細亜大学 平井ゼミ チームあおぞら	東久留米市	3	法政大学 水野研究室 チーム・シビックプライド	八王子市
	タブレットで絵を動かそう ビジュアルプログラミングソフト・Viscuitを使った 児童館でのプログラミング体験			子ども達とともに育てるシビックプライド クリエイティビティに着目した八王子市のシティプロモーション	
2	帝京大学 湯川ゼミ 防災班	八王子市	4	明星大学 EADS（イーズ）	多摩地域全体
	遊びながら学ぼう！八王子の防災 安心して暮らせる町へ			多摩420万人会議 小さな好奇心は世界を変える	

402教室（28号館4階）

5	明星大学 森屋ゼミ HERO'S	立川市	7	帝京大学 湯川ゼミ 青梅班	青梅市
	レモン香る立川へ 地域産業から始まる地域活性化			日本の田舎町へ行こう！ ～Natural tourism in Ome～	
6	帝京大学 石川ゼミ グリーンサイクル	多摩市、日野市、 八王子市	8	創価大学 安田ゼミ Amor	八王子市
	これから、エコが街を走ります シェアサイクルが繋ぐ多摩の道			誰もが地域とつながりを持てる社会へ Love the life you live, live the life you love.	

405教室（28号館4階）

9	法政大学 水野研究室 TEAM Emergency	八王子市	11	創価大学 安田ゼミ OMNIBUS	八王子市
	キャンプ・イン・キャンパス 乳幼児を抱える家族が快適に過ごせる避難生活の提案			外国人技能実習生の日本語能力向上を促進！～Japanative Project～ 企業と技能実習生の双方にとって、技能実習制度がより価値あるものに	
10	駒澤大学 青木ゼミ まちコンプロジェクト	多摩全域	12	帝京大学 湯川ゼミ 映画班	多摩市
	すべての人が自分らしくいきるまちづくり ジェンダーフリーの先駆けを多摩で！			OUTDOOR THEATER in Tama City 多摩市の活性化を目指して	

406教室（28号館4階）

13	創価大学 勸坂ゼミ チームPAN・PAN	八王子市	15	東京経済大学 山本聡ゼミナール 食農班	東大和市
	規格外野菜×野菜不足の大学生 都市農業促進の観点から			多摩の農トレ！ ～農業で運動を～	
14	創価女子短期大学 水元研究室 ショウガールズ	八王子市	16	明星大学 森屋ゼミ Ludique	立川市
	はちおうじ生姜力 ～八王子ショウガでHOTなスイーツを～			立川とびしまレモン支援 ファブスペースTschoolの活用と立川市内商店街のイベントを通して	

審査委員



専務理事
細野 助博
中央大学
名誉教授



審査委員長
八木 敏郎氏
多摩信用金庫
理事長



担当常務理事
西浦 定継
明星大学 理工学部
総合理工学科 環境科学系
教授

401 教室



植原 幹郎氏
株式会社いなげや
社長室長



木内 基容子氏
八王子市
副市長



羽生 謙五氏
東京都市長会
事務局
企画政策室長



渡辺 達朗氏
専修大学 商学部
商学部長・教授

402 教室



木村 治生氏
㈱ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所・
高等教育研究室長



黒澤 重徳氏
国立市
政策経営部 政策経営課
政策経営課長



小林 久恵氏
エム・ケー 株式会社
常務取締役



田中 良明氏
立川市
副市長



荻原 弘次氏
日野市
副市長

405 教室



雨宮 克也氏
三井不動産株式会社
開発企画部・
環境創造グループ長



井上 成氏
三菱地所株式会社
新事業創造部 兼
街ブランド推進部 兼
丸の内開発部
担当部長



浦野 卓男氏
多摩市
副市長



高橋 豊氏
町田市
副市長

406 教室



矢部 俊男氏
森ビル株式会社
都市開発本部 計画企画部
メディア企画部 部長



村井 隆三氏
医療法人社団おなか会
おなかクリニック
理事長・院長



美馬 慎一郎氏
株式会社立飛
ホールディングス
取締役 財務広報企画部長



荒岡 斉志氏
福生市
企画財政部 企画調整課
企画調整課長



田淵 隆俊氏
東京大学
大学院 経済学研究科
教授

開会挨拶

明星学苑 副理事長
ネットワーク多摩 会長
小川 哲生 氏



本日は、ネットワーク多摩主催の第6回多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019に多くの学生団体がエントリー頂き、また、ご関係者の皆様にご参加いただき心から感謝申し上げます。

本日は、第6回目という事で年々プレゼンの内容も良くなって来ています。大学・企業・行政の方々の審査委員でのご参加を心よりお礼申し上げます。

学生のアイデアを求めて、学生が成長することが大切です。また、審査委員の方々からのご意見を含めて学生アイデアがどの様に多摩地域に反映されるのか楽しみです。今後とも、よろしくお願いいたします。

選考会の様子



開会式の様子



プレゼンの様子



プレゼンの様子



ポスターセッションの様子



ポスターセッションの様子



質疑応答する審査員



表彰式の様子



懇親会の様子

表彰団体一覧		
区分	大学・団体名	チーム名
最優秀賞	創価大学	OMNIBUS (オムニバス)
	安田ゼミ	
優秀賞	創価大学	Amor
	安田ゼミ	
優秀賞	創価女子短期大学	ショウガールズ
	水元研究室	
奨励賞	帝京大学	防災班
	湯川ゼミナール	
奨励賞	法政大学	チーム・シビックプライド
	水野研究室	
ポスター賞	創価大学	Amor
	安田ゼミ	

第3章

表彰団体 報告書

第6回

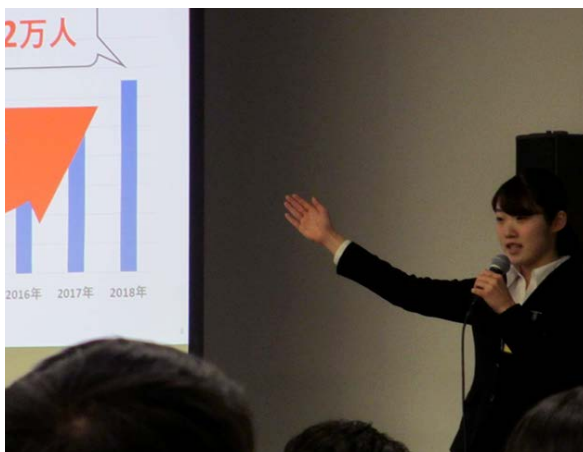
多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019

創価大学 安田ゼミ OMNIBUS

最優秀賞

外国人技能実習生の 日本語能力向上を促進！ ～ Japanative Project ～

企業と技能実習生の双方にとって、技能実習制度がより価値あるものに



- ◆メンバー 高山優果、木場瑛穂、松田哲平、小早川桜、疋田陽子、井上歩泉、古市秀生、西山良美
- ◆担当教員 安田賢憲

発表概要

私達OMNIBUSは、「技能実習生と企業の双方が生き生きと働くことのできるまちづくり」とのビジョンを掲げ活動をしている。このプロジェクト活動では、多摩地域の深刻な人手不足対策として受け入れられている外国人労働者の中でも、日本語能力が乏しい状態で日本へ入国ができてしまう実習生の労働生産性及び技能習得の程度が必ずしも高くないことに着目した。そして、実習生の技能習得に関する論文からの情報収集、企業や監理団体へのフィールドワーク、電話やメールでのヒアリング等で独自調査を行ってきた。そこで、仕事でのコミュニケーションにおいて基礎的な日本語能力が十分ではない為、技能が習得できていないという実習生が多いにも関わらず、多くの企業が日本語教育の環境を整えられていないという課題がわかった。中でも、実習生の日本語能力と技能習得度の程度の高さに高い相関関係があることに着目した。私達は地域活性化の観点から実習生の日本語能力と技能習得を支援することのできる日本語教育サービス「Japanative」を考案し、その事業化のためのビジネスモデル案の発表を行った。

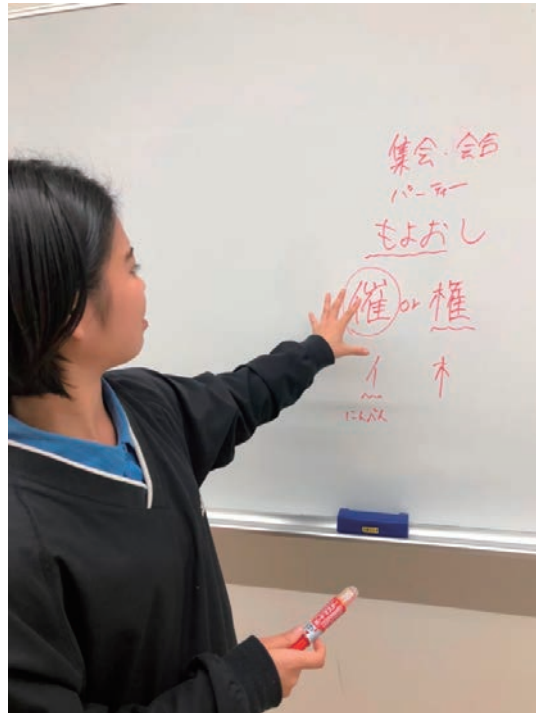
活動の目的

本ゼミでは「人間主義に立脚した世界の実現のため、社会問題を解決する知恵の人を育成し輩出する」との理念を掲げている。この理念は、人間の可能性を開き、自分も他人も幸福になるという思想に立脚した世界を実現するため、社会問題を解決する人間力と問題解決力を身に付け、社会に還元していくということである。そこで私達はゼミ理念の実現のために、社会問題だと考えられる実習生の労働生産性及び技能習得の程度が必ずしも高くないことを問題視した。そして、「発表の概要」で示したビジョンを掲げ、社会問題を解決するためのビジネスモデルを構築し活動してきた。活動は2月から約10か月間、本質的な課題やクリティカルな解決策は何なのかを模索しチーム全員の力を結集してプロジェクトを進めてきた。しかし、プロジェクトを進める中でさまざまな壁に直面することになる。その度に、活動の目的や個々人の目的を何度も話し合い、チームで結束力を高めてきた。そしてこれまでの経験を活かし、最終的には私たちのビジョンを実現するため、八王子市、東京から全国へと波及させていこうと考えている。私達はビジョンを実現するため、今後もプロジェクトを進めていく。

活動の内容・様子

私達の考案した「Japanative」はWeb上で行う日本語教育サービスであり、「メンター制度」「Japanativeカード」「チェックテスト」の3つのコンテンツから構成されている。第1に、メンター制度とは実習生と大学生のコミュニケーションの場を設けるものである。日常会話や実習生がテスト、日常で理解することのできなかつた単語の解説を行う。写真は実際に日本語を教える

いる様子である。第2に、Japanativeカードとは現場で使われる専門用語を写真と共に覚えることができるものである。第3に、チェックテストとは実習生の日本語と専門用語の能力を数値化し、可視化するものである。



私達は、施策である「Japanative」のプロトタイプを実習生を雇用する企業15社、7名の実習生に使用してもらう事が出来た。現段階では全サービスの運営をチームメンバーの手で行っている。実際にJapanativeを使用した実習生の1名は、2か月間で日本語能力検定試験3級レベル（日常的な場面で使われる日本語をある程度理解できる）から2級レベル（幅広い場面での日本語を理解できる）へと上達する事が出来た。このような成果を踏まえ、私達は今後も”発表の概要”で示したビジョンの達成を目指し活動を進めていく。写真はメンター制度を実施した実習生、企業様にフィールドワークに伺った際のものである。



参考文献

- [1] 石田淳 (2017)『図解うまくなる技術行動科学を使った自己成長の教科書』まる出版
一般社団法人中小企業診断協会(2019)「平成30年度『調査・研究事業』
外国人労働者の採用制度の活用・支援マニュアルの研究開発 報告書」
(<https://www.j-smeca.jp/attach/kenkyu/honbu/h30/gaikokujinroudousyasaiyou.pdf>)
- [2] 植村研一(2009)「脳科学から見た効果的多言語学習のコツ」
(https://www.jstage.jst.go.jp/article/ninchishinkeikagaku/11/1/11_1_23/_pdf)
- [3] 緒方広明・矢野米雄(2004)「語学学習を対象としたユビキタスラーニング環境の試作と実験」
(https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=repository_uri&item_id=10804&file_id=1&file_no=1)
- [4] 郭 清蓮(2013)「外国語学習と迷路ゲームを融合したデジタルアプリケーションの構築」
(https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/?action=repository_action_common_download&item_id=95107&item_no=1&attribute_id=1&file_no=1)
- [5] 片山智子・菅 智穂(2010)「日本語初級学習者の接触場面に関する実態調査」
(<https://core.ac.uk/download/pdf/60531230.pdf>)
- [6] 厚生労働省(2016)「雇用動向調査」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/doukou/17-2/index.html>)
- [7] 厚生労働省(2017)「労働経済動向調査」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/keizai/1711/>)
- [8] 厚生労働省(2018)「『外国人雇用状況』の届出状況表一覧(平成30年10月末現在)」
(<https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/000472893.pdf>)
- [9] 厚生労働省(2018)「新たな外国人技能実習制度について」
(https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11800000-Shokugyounouryokukaihatsukyouku/0000204970_1.pdf)
- [10] 厚生労働省(2018)「外国人労働者の現状」
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12602000/000391311.pdf>)
- [11] 厚生労働省(2019)「職業安定業務統計」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/114-1b.html>)
- [12] 厚生労働省職業安定局(2018)「人手不足の現状把握について」
(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11601000-Shokugyouanteikyoku-Soumuka/20141111-3_1.pdf)
- [13] 国土交通省(2017)「国土交通白書2017」
(<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h29/hakusho/h30/pdfindex.html>)
- [14] 国土交通省(2018)「建設分野技能実習に関する事業協議会(第1回)」
(<https://www.mlit.go.jp/common/001227582.pdf>)
- [15] 国土交通省(2019)「技能実習制度の現状」
(<https://www.mlit.go.jp/common/001273509.pdf>)
- [16] 産経新聞(2018)「外国人技能実習監理団体、初の取り消し」
(<https://www.sankei.com/economy/news/181227/ecn1812270015-n1.html>)
- [17] 宋 璐璐(2019)「中国人英語学習者語用論的過失の考察」
(https://toyo.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=10983&file_id=22&file_no=1)
- [18] 総務省(2017)「労働力調査年報」
(<https://www.stat.go.jp/data/roudou/report/2017/index.html>)
- [19] 中小企業庁(2018)「中小企業白書2018 第2部 深刻化する人手不足と中小企業の生産性革命」
(https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H30/PDF/chusho/04Hakusyo_part2_chap1_web.pdf)
- [20] 独立行政法人 労働政策研究・研修機構(2016)「企業における外国人技能生の受け入れに関する調査」
(https://www.jil.go.jp/institute/research/2016/documents/157_05.pdf)

- [21] 日本政策金融公庫総合研究所(2018)「第9回日本公庫シンポジウム報告書中小企業における外国人雇用の現状と課題」
(https://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/symposium10_180330.pdf#search='%E4%BC%81%E6%A5%AD+%E4%BA%BA%E6%89%8B%E4%B8%8D%E8%B6%B3+%E6%94%B9%E5%96%84%E6%B3%95+%E6%8A%80%E8%83%BD%E5%AE%9F%E7%BF%92+%E5%89%B2%E5%90%88)
- [22] 八王子市 (2016)「外国人住民の国籍別人口」
(<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/002/006/tokehachihkakunen/toukeihachiojih30/p024804.html>)
- [23] 八王子市 (2018)「はちおうじ学園都市ビジョン」
(https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/002/a951649/p021599_d/fil/gakuentoshi_vision_honpen.pdf)
- [24] 見崎要(2019)「外国人労働者の日本語能力が技能習得に与える影響 —建設産業を事例として—」
(<http://www3.grips.ac.jp/~up/pdf/paper2018/MJU18713misaki.pdf>)
- [25] みずほ産業調査(2016)「総論—日本産業が着目すべきメガトレンド—」
(https://www.mizuhobank.co.jp/corporate/bizinfo/industry/sangyou/pdf/1054_01_02.pdf)
- [26] 森永弘史(2013)「よりよい大学英語教育カリキュラムを作成するための質問紙を利用したニーズ・アナリシス調査」
(<https://doors.doshisha.ac.jp/duar/repository/ir/14855/045000010002.pdf>)
- [27] JITCO(2017)「2017年度技能実習生の労働条件に係る自主点検実施結果の取りまとめ」
(https://www.jitco.or.jp/about/data/chousa_houkoku/2017jishutenkenkekka.pdf)
- [28] ヤマトデータベース協同組合(2018)「外国人技能実習生制度(研修生制度)とは？」
(<http://www.yd-jissyusei.com/>)

多文化共生推進プラン
 <基本理念>

国籍、民族、文化の
 違いを認め合い、助け合い、
 活かし合いながら、共に暮らす
 多文化共生のまちづくり

<基本目標>

外国人市民も安心して
 暮らせるまちの実現

国際感覚豊かな
 市民を育むまちの実現

1



2

VISION
 技能実習生と企業の双方が
 生き生きと働くことのできる
 まちづくり

3

創価大学安田ゼミナール OMNIBUS

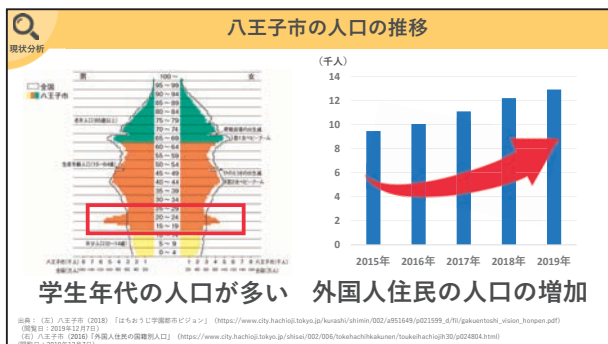
高山優果 井上歩泉 木場瑛穂 古市秀生
 小泉川桜 松田哲平 西山良美 足田陽子

4

アジェンダ

- 現状分析
- 施策提案
- 検証
- 今後の展望

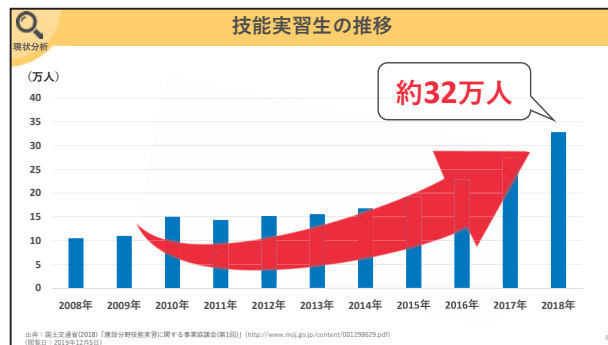
5



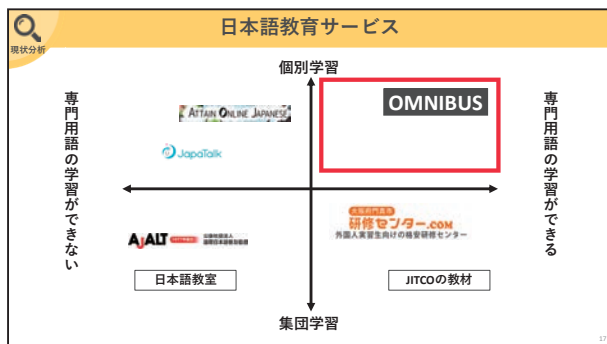
6



7



8



17

18

19

20

21

22

名前：ひでお 出身：徳島 趣味：バスケット 対応日：土曜18時～ 評価：★★★	名前：こうじ 出身：神奈川県 趣味：食べ歩き 対応日：火曜21時～ 評価：★★★	名前：るい 出身：福岡 趣味：ダンス 対応日：日曜18時～ 評価：★★★	名前：ちえ 出身：千葉 趣味：映画 対応日：月曜19時～ 評価：★★★
---	--	--	---

23

24

メンター制度

②チェックテストのフィードバック (FB) と復習・相談 (約40分)

メンター (大学生)

実習生

25

Japanative Card (リーディング)

コンクリートをかためるときにつかうきんぞくをかたかく

ごうはんせい かたわくと ○○は いっしょにつかえます

きんぞくせい かたわく 重機取付

26

Japanative Card (リスニング)

コンクリートを流し込むときに型枠を固定するもの

ホームタイ

ごうはんせい かたわくと ○○は いっしょにつかえます

27

チェックテスト

日本語対策

日本語能力試験対策テスト

実習生の苦手単語テスト

*メンターのフィードバックに基づく

専門用語対策

技能検定対策テスト

*技能検定出題範囲に基づく

Japanativeカード内容復習テスト

28

検証

有効性

実現可能性

29

効果検証

6名の実習生がJapanativeの検証に協力!

30

効果検証

	使用者 Aさん	未使用者 Bさん
日常会話 テスト	47点/60点 ↓ 59点/60点 (UP)	49点/60点 ↓ 48点/60点 (DOWN)
専門用語 テスト	15点/20点 ↓ 19点/20点 (UP)	16点/20点 ↓ 15点/20点 (DOWN)





31

効果検証 (日常会話テスト)

 Aさん (目標⇒N3) 現在、目標以上のN2レベルにも到達!	N3の正答率 74%⇒93% N2の正答率 59%⇒100%	 Cさん (目標⇒N2)	N2の正答率 34%⇒100%
 Dさん (目標⇒N2)	N2の正答率 47%⇒53%	 Eさん (目標⇒N3)	N3の正答率 34%⇒73%

32

効果検証（専門用語テスト）

 <p>随時3級の正答率 80%→95%</p> <p>Aさん（目標→随時3級）</p>	 <p>随時3級の正答率 90%→90%</p> <p>Cさん（目標→随時3級）</p>
 <p>随時3級の正答率 60%→100%</p> <p>Dさん（目標→随時3級）</p>	 <p>随時3級の正答率 70%→80%</p> <p>Eさん（目標→随時3級）</p>

33

技能実習生の学習意欲

5人中4人がJapanativeをもっと使用したいと回答

*協力者6名のうち1名は比較検証

34

有効性（企業の声）

株式会社イチマル様

日本語力がこの調子で上がれば
任せる業務が増える

専門用語を交えた業務内容の指示も少しずつ理解するようになった

有限会社 阿寒グリーンヒルファーム様

35

実現可能性（ニーズ調査）

Japanativeを使用したいと答えた企業（八王子） **8社**

36

実現可能性

18大学47人がメンターとして協力！

上智大学、早稲田大学、関西外国語大学、慶應義塾、明治大学、創価大学、立教大学、中央大学、国語館大学、法政大学、近畿大学、大阪大学、東京大学、近畿大学、新路公立大学、津田塾大学、北星学園大学、群馬県立女子大学

37

実現可能性（Japanative監修）

創価大学日本語日本文化教育センター 板屋 登子先生

日本語能力の向上に**有効**だと思う
Japanativeの日本語面に関する**協力**をしたい

この施策は実習生の技能習得に**有効**だと思う
より効果的なものにするために**専門用語面に関する協力**をしたい

協同組合アジアリンク様 山本様

38

一般社団法人GWS事業主交流会

参加企業のうち8社から
プロジェクトのブラッシュアップに協力

39

社会起業家からの評価

ユヌス&ユー ソーシャルビジネスデザインコンテスト
エンゲージメント・ファースト賞
ヴェオリア賞 受賞

40



49

担当教員まとめ

この度は、多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019の発表部門にて最優秀賞を頂戴致しましたこと、その折に多くの有益なコメントを頂戴致しましたこと、担当教員として厚く御礼申し上げます。当方のゼミでは、経営戦略論に関する知識を学び、ビジネスを活用して社会課題を解決・是正することを目指して改善提案を考え抜き、検証することを通して、学生の「問題発見力」と「問題解決力」を磨くことを目指しています。OMNIBUSのメンバーはチーム結成当初から技能実習生に関わる問題に焦点を当て、現場に足を運び、解決・是正すべき問題が何かを探し続け、技能実習生の生産性と日本語力に正の相関があることを発見し、彼らの日本語力の向上という観点からその是正策を考え抜きました。その過程で様々な困難に見舞われていましたが、それらを乗り越え、問題発見力や解決力を磨くことはもちろん、人間的にも強く大きく逞しく成長してくれました。今回、彼らの思いや努力がこうしてご評価いただけたことは大変に喜ばしく思いますが、多くの方にご支援を賜ったからこそその結果であり、ご厚情を賜った全ての方にこの場を借りて深く深く御礼申し上げたく存じます。

創価大学 安田ゼミ OMNIBUS ◆担当教員 安田賢憲

創価大学 安田ゼミ Amor

優秀賞

誰もが地域とつながりを持てる社会へ

Love the life you live, live the life you love.



- ◆メンバー 西尾ひとみ、榊原りほ、矢島直美、安次嶺春華、長谷川耀、松永心、リュウキ
- ◆担当教員 安田賢憲

発表概要

我々の住む多摩地域は、持続可能な暮らしやすい町づくりを目標としている。そこで私たちは、そこでの行動戦略である「高齢者が健康で生き活きと暮らせる社会」の実現に向け、地域と繋がりを持つことで生きがいを持って暮らせるよう、社会参加に着目した。実際に社会参加を促進することで生きがいを向上させる効果が見込まれているが、一方社会参加をしないことで、認知症等の発症リスクが上昇することも明らかとなっており、社会参加が不可欠だと考える。そこで我々は、意欲はあるが社会参加できていない全体の三割を占めるシニア層(モラトリアムシニア)の行動変容を促進することが効果的だと考えた。そして参加までの行動変容を可視化できるAISASモデルを参考に、情報収集と行動の段階に社会参加できていない原因があると考え、それに対する施策を講じた。具体的には、人や雰囲気との相性が伝わる実態に関する情報と、参加を後押しする仕組みを提供価値としたコミュニティサイトである。しかし、我々の求める情報媒体の製作にはいくつか課題があるため、行政が運営する既存の情報媒体に我々が研究した提供価値を含めることで、より有効的に社会参加を促進できると考えた。今後は、行政を含めた周囲の方々と協議を進めながらビジョンの達成を目指す。

活動の目的

私たちの活動は、メンバーの原体験から始まりました。配偶者を亡くしたメンバーの祖母が誰も話さず、一人寂しそうに暮らすことが多くなりました。そのような様子を見て、誰もが地域と繋がりを持てる社会の実現をビジョンに掲げ、社会参加に着目しました。社会参加をすることで、生きがいを感じる割合が増加する効果があります。一方社会参加をしないことで、うつ病や認知症の発症リスクが上昇するといった悪影響に陥ります。近年、日本では少子高齢化社会となり、大介護時代が直面する中で、高齢者一人に対して約二人で支える計算で、生産人口にあたる一人の負担がますます大きくなることが見込まれています。そこで地域の活性化を図り、住民一人一人が支え合っているまちづくりが大切だと考えます。またインターネットの普及により地域での関わりが薄くなる中、社会的孤立に陥る高齢者が増加傾向にあり、予防として社会参加を促進することで、是正していく必要があると考えました。私たちは、多摩地域の掲げる都市像の実現を目指すと同時に、我々のビジョンである誰もが地域と繋がりを持てる社会を実現します。

活動の内容・様子

私たちは昨年の2月から約一年間、主に学内で理論の研究を行い、事業企画や組織体制を構築していくために議論を重ねてきました。また学外では、コミュニティサイトを作成し持続的に運営していくために、実地調査として、受益者となる高齢者の方々へのアンケート配布やコミュニティ・行政・専門家・企業の方々との協議させていただきました。アンケートでは駅前などの公共の場に出向き活動しました。用紙作成や聞きたい内容に沿った話の流れを把握するといった事前準備やコミュニケーションの基本である話を聞くこと、伝えることに工夫を凝らしながら試行錯誤していきました。協議では、様々な方々とお話をさせて頂く中で、事業の改善や推進を図ることができ、現在もより良いまちづくりや社会参加の促進に向け、様々ご協力頂いております。

活動の成果

上記にも一部記載した通り、活動を通して私たちの研究した二つの提供価値を、行政の方々が運営している既存のコミュニティサイトに組み込んで頂く方針で、私たちの事業企画の完成・運営に向けて協議を進行しています。2020年4月頃を目標にサイトをリリースできるよう、現在、外部の企業への製作発注に向けてシステムの具体的な設計を取り決めています。また、サイトに掲載して頂くコミュニティでは、私たちがイベント企画を行い、参加者の方々と簡単なゲームを通して交流しました。このように様々な方々と協働していく中でお互いの活動がより良いものとなり、その影響で地域が活性化していければと考えています。今後とも八王子を中心に多摩地域へ、私たちの研究活動から社会参加を促進し、ビジョン達成を目指して努めて参ります。

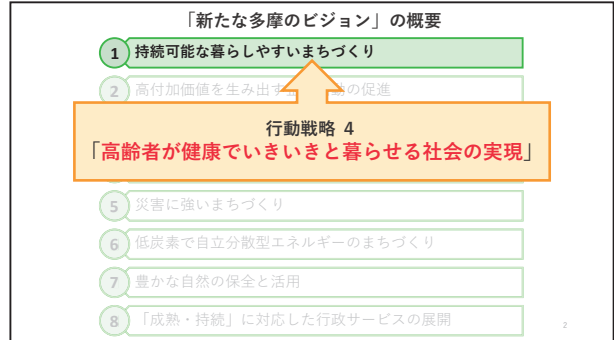


参考文献

- [1] 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター (2018)「介護予防につながる社会参加等の事例の分析と一般介護予防事業へつなげるための実践的手法に関する調査研究事業」
(https://www.tmg Hig.jp/research/info/cms_upload/455219515829a9able80af0bc61f3b33.pdf)
- [2] 東京大学高齢社会総合研究機構 (2014)「高齢者の社会参加の実態とニーズを踏まえた 社会参加促進策の開発と社会参加効果の実証に関する調査研究事業」
- [3] 藤原佳典 他『都市高齢者における社会的孤立予測要因』(2018)
(https://www.jstage.jst.go.jp/article/jph/65/3/65_17-036/_pdf)
- [4] 経済産業省「将来の介護需給に対する高齢者ケアシステムに関する研究会」(2018)
(<https://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180409004/20180409004-2.pdf>)
- [5] 對馬 友美子 (2017)「シニア市場の最有望ターゲット『モラトリアムおじさん』を攻略！」
(<https://dentsu-ho.com/articles/5063>)
- [6] jeki シニアラボ「もう一度シニアアプローチを考える～「モラトリアムシニア」が動くとき～」
(<https://www.jeki.co.jp/info/files/upload/20180403/>)
- [7] 八王子市「くらしの情報」
(<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/index.html>)
- [8] はちコミねっと
(<http://hachikomi.genki365.net>)
- [9] 東京都「多摩の振興プラン(仮称) (2017)」
(http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/05/29/documents/12_08.pdf)
- [10] 武庫川女子大学 長岡 雅美 (2007)「地域高齢者の社会参加の現状」
- [11] みずほコーポレート銀行 産業調査部「高齢者向け市場」



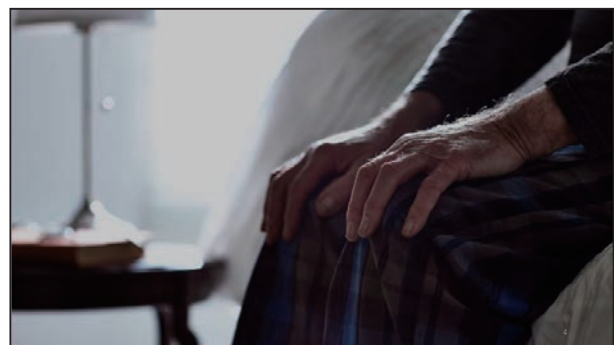
1



2



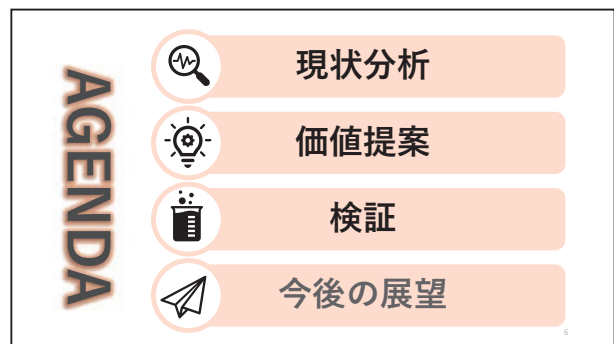
3



4



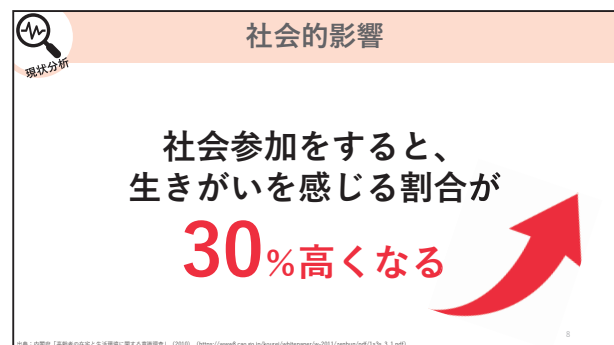
5



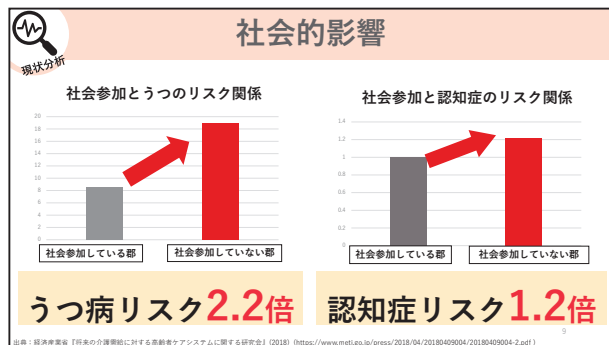
6



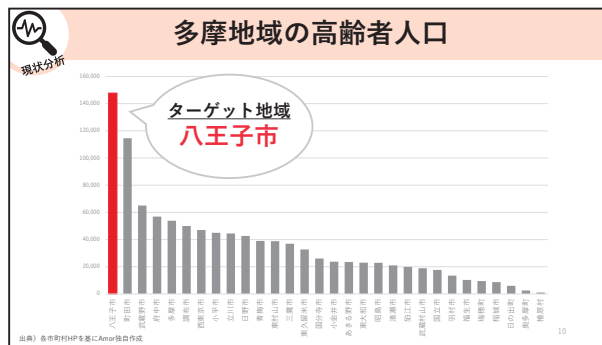
7



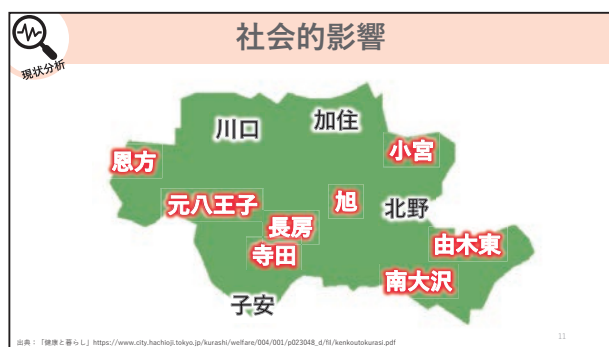
8



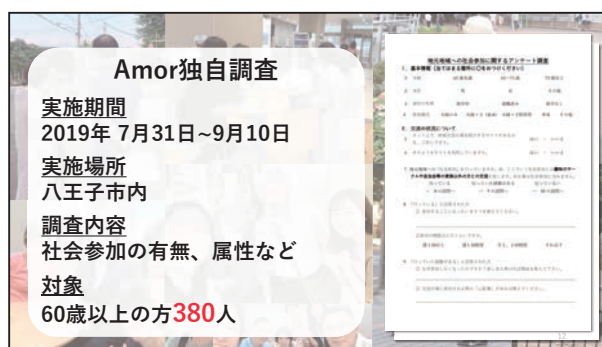
9



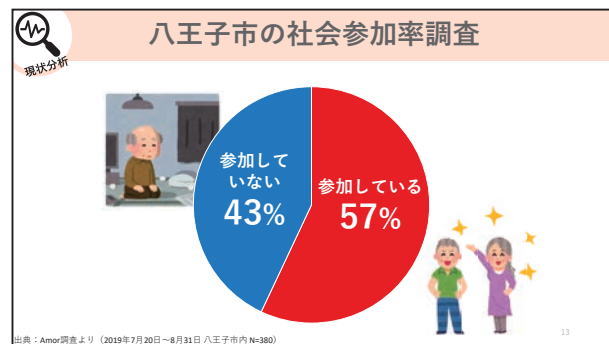
10



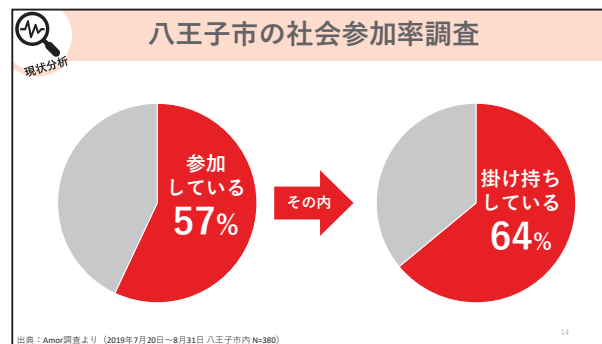
11



12



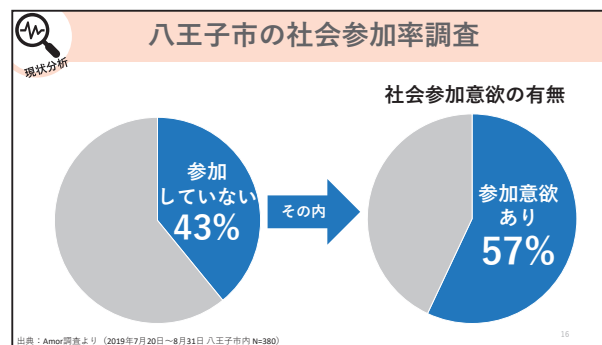
13



14



15



16



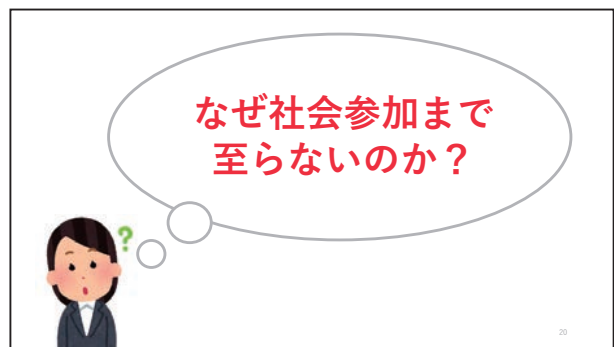
17



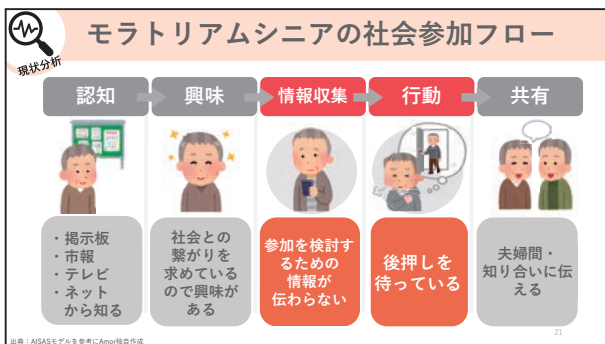
18



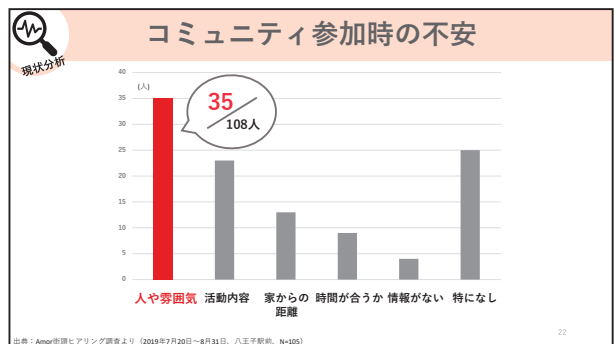
19



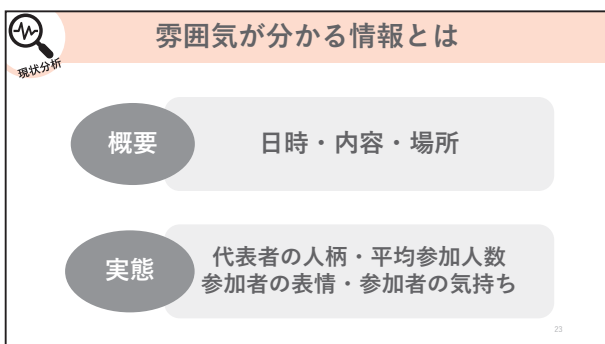
20



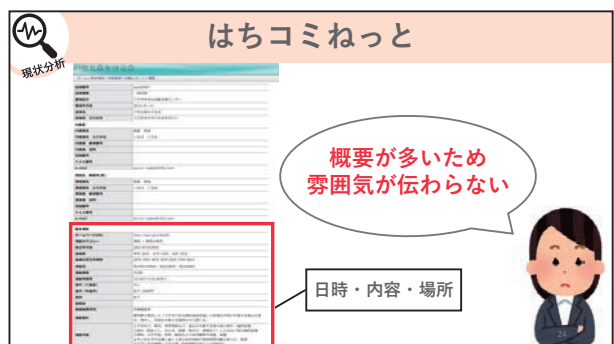
21



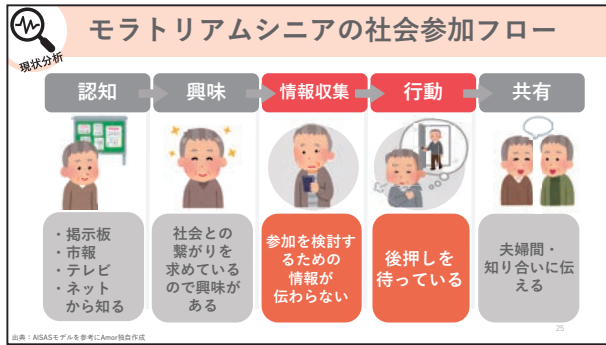
22



23



24



25

有識者の声

現状分析

ビデオリサーチ社ひと研究所
対馬友美子氏
(8月23日インタビュー)

26

シニアの声

現状分析

60代 男性

60代 男性

出典：Amor主催シニアリング調査より（2019年7月20日～8月31日、八王子駅前）

27

まとめ

現状分析

- ・感性に訴求する情報の提供
- ・参加までの後押し

28

コミュニティサイト Amor Connect

2つの特徴

- ・実態まで行き届いた丁寧な情報提供
- ・参加の後押しをするお誘いメール

29

丁寧な情報提供

Amor Connect 概要

- 平均参加者数
- 代表者の声
- 参加者の声
- 活動の様子写真

30

丁寧な情報提供

Amor Connect 概要

- 平均参加者数
- 代表者の声
- 参加者の声
- 活動の様子写真

31

丁寧な情報提供

Amor Connect 概要

- 平均参加者数
- 代表者の声
- 参加者の声
- 活動の様子写真

32



33



34



35



36



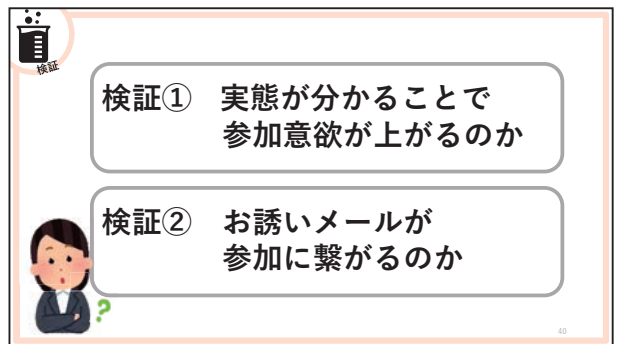
37



38




39



40

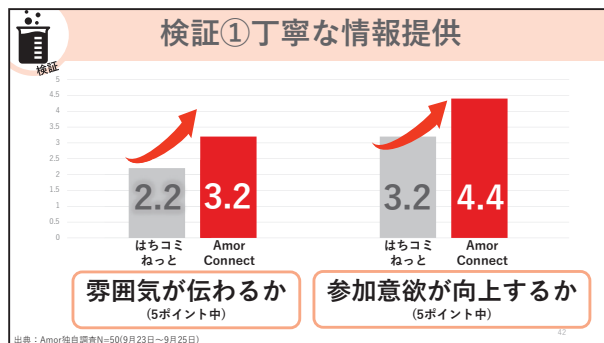
検証①丁寧な情報提供

「はちコミねっと」と「AmorConnect」を
5点満点で評価




- ✓ 雰囲気が分かるかどうか
- ✓ 参加したいと思うかどうか

41



42

検証①丁寧な情報提供




写真や、参加者の声があると
雰囲気が分かりやすい

**実態に関する情報を記載すると
参加意欲が上がる**

43

**検証① 実態が分かることで
参加意欲が上がるのか**

**検証② お誘いメールが
参加に繋がるのか**



44

検証②お誘いメール





7人の方にお誘いメールを送信

趣味・特技などを基にお誘いメールを送信

45


検証②お誘いメール



参加したい

46

検証②お誘いメール




自分が興味のある活動から
お誘いメールが来るので、
参加したいと思った

**お誘いメールでの後押しが
参加に繋がる**

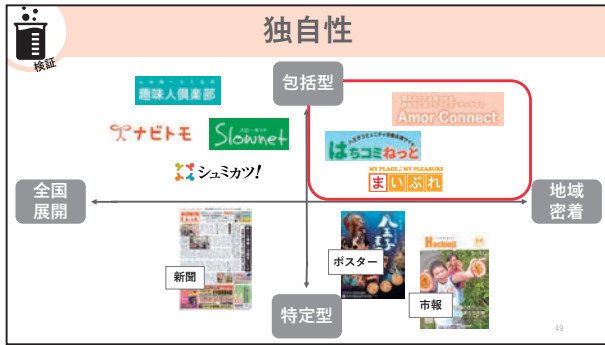
47

**検証①実態が分かることで
参加意欲が上がるのか**

**CLEAR! 検証②お誘いメールが
参加に繋がるのか**



48



49

独自性(地域密着型サイト比較)

	まいぶれ	はちコミねっと	Amor Connect
丁寧な情報提供	△	△	○
お誘いメール	×	×	○

50

独自性(地域密着型サイト比較)

	まいぶれ	はちコミねっと	Amor Connect
丁寧な情報提供	△	△	○
お誘いメール	×	×	○
コミュニティ数	65	417	35

51

はちコミねっと

- ✓ 多様なカテゴリーから 417団体が掲載
- ✓ 次期バージョン開発予定

強み

- ・コミュニティ数が多い
- ・安心安全 (高齢者は行政への信頼度が高い)

弱み

- ・概要の掲載が多い
- ・参加予約ができない
- ・要約ができてない

52

実現可能性

はちコミねっと 運営責任者

Amorに協力できます

53

実現可能性

八王子市長への提案

54

PR方法

八王子市民活動推進部 協働推進課 大野さん 他

市民センター19箇所 及び八王子市の運営する 広報サイトにてPR

学園都市センター・協力企業にて ポスターの設置を実行中

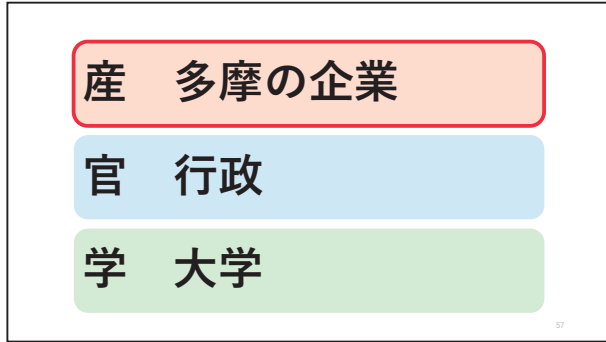
55

実行計画

より多くの人の社会参加促進へ PR活動を行なう

AmorConnectの特徴をはちコミねっとに組み込む

56



57



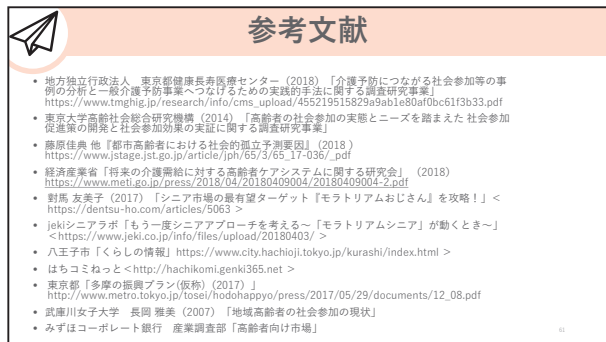
58



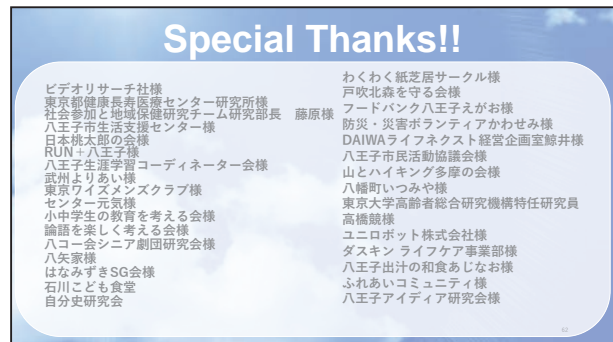
59



60



61



62



63

担当教員まとめ

この度は、多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019の発表部門にて優秀賞ならびにポスター賞を頂戴致しましたこと、その折に多くの有益なコメントを頂戴致しましたこと、担当教員として厚く御礼申し上げます。当方のゼミでは、経営戦略論に関する知識を学び、ビジネスを活用して社会課題を解決・是正することを目指して改善提案を考え抜き、検証することを通して、学生の「問題発見力」と「問題解決力」を磨くことを目指しています。Amorのメンバーは当初、テーマがなかなか定まらず、担当教員としてはヒヤヒヤしましたが、テーマが定まっからは怒涛の調査を展開し、地域に繋がりを持ちたいシニアにどんな情報をどのような手段で届けることが効果的なのかを様々な角度から検証し、提案をまとめました。その過程で様々な壁に直面していましたが、それらを乗り越え、問題発見力や解決力を磨くことはもちろん、誠実さや真摯さを大きく磨いてくれました。今回、彼らの思いや努力がこうしてご評価いただけたことは大変に喜ばしく思いますが、多くの方にご支援を賜ったからこそその結果であり、ご厚情を賜った全ての方にこの場を借りて深く深く御礼申し上げます。

創価大学 安田ゼミ Amor ◆担当教員 安田賢憲

創価女子短期大学 水元研究室 ショウガールズ

優秀賞

はちおうじ生姜力

～八王子ショウガでHOTなスイーツを～



- ◆メンバー 坂口望、南咲穂、鶴居咲桜、阪井千華
- ◆担当教員 水元昇

発表概要

私たちの目的は八王子ショウガを通して八王子の地域活性化に繋げることです。

自分たちで試作を重ねながらスイーツで八王子の魅力を発信している洋菓子店、パティスリーメゾン様との提携が決定しました。企画を進めるにあたり、八王子ショウガの旬により、販売時期が限られること、他県産の生姜との差別化という2つの課題がありました。一つ目の解決方法として、生姜の保存が利かないため、保存期間を長くするために生姜を砂糖煮にすることにしました。砂糖煮にすることで約1年間は保存が効き、季節を問わず、生産することができます。二つ目の解決方法として創価大学理工学部新津先生に八王子生姜の成分分析を行って頂きました。八王子ショウガと高知県産生姜を比較したところ、八王子ショウガは糖類の種類が多く、甘み成分が豊富なことがわかり、スイーツにしやすい生姜であるということがわかりました。今後は、リーフレットの作成、ネーミングの考案、販売エリアの拡大を図ります。パティスリー・メゾン様に今後も継続してスイーツを生産していただけるよう、農家様とメゾン様との生産ルートの構築のために農協の方にご協力いただきながら話し合いを進めてまいります。

活動の目的

八王子ショウガスイーツ開発の目的は八王子ショウガを通して、八王子の地域活性化に繋げることです。大学祭、いちょう祭りで八王子ショウガの認知度に関するアンケートを実施したところ、八王子ショウガを知らないと答えた人が68パーセントで約7割が認知していないという結果が出ました。以上より八王子ショウガの認知度は低いと言えます。八王子ショウガスイーツの効果としては以下のことが期待されます。お店で出回ることが少ない八王子ショウガの古根を農家から買い取ることで、農家に直接利益を還元することができ、古根を有効活用することができます。また、「八王子ショウガスイーツ」という商品にすることで、手にとってもらいやすく、認知度が上がることが期待されます。認知度が上がり、お土産品として広まれば、地域の人々だけでなく、観光客にも八王子の魅力を発信することができ、地域活性化に繋がります。このように、八王子ショウガスイーツを通して、地域活性化に繋げることが私たちの目的です。

活動の内容・様子

八王子ショウガを使って様々なスイーツの試作を行いました。試作品の中から特に保存期間が長く、八王子ショウガの香りや、風味を生かすことができたクッキーを開発することに決定しました。

滝山地域の活性化のために活動されている滝山未来塾からご紹介いただいた洋菓子店パティスリーメゾンと提携が決定し、ジンジャークッキー、ジンジャースノーボールクッキーの二種類の商品を完成させました。大学祭に向けて商品のPRとしてポスター、およびパッケージデザインを考案し改善を重ね、完成させました。



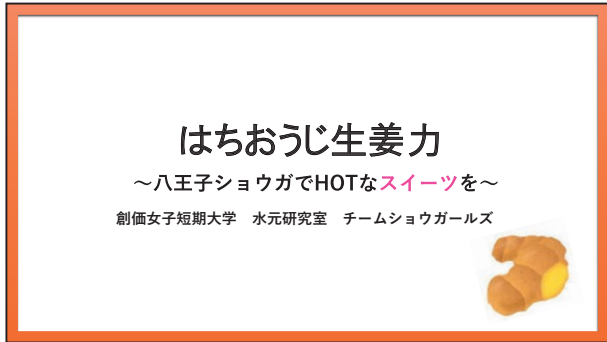
活動の成果

研究大学祭ではクッキー、スノーボールクッキー各200個計400個を用意し、完売することができました。道の駅八王子滝山でもモニター販売として各20個計40個を販売し、3時間で完売することができました。これらの販売を通していただいた意見や感想をもとに更なる商品の改善を目指し、新たにマドレーヌを開発しました。八王子いちご祭りでは、改善を重ね完成させた3種類のスイーツを2日間で各80個計240個を販売し、完売することができました。また、販売戦略としてクッキー2個、スノーボールクッキー1個、マドレーヌ1個をセット商品にして各10セットずつ販売し、ご好評をいただくことができました。

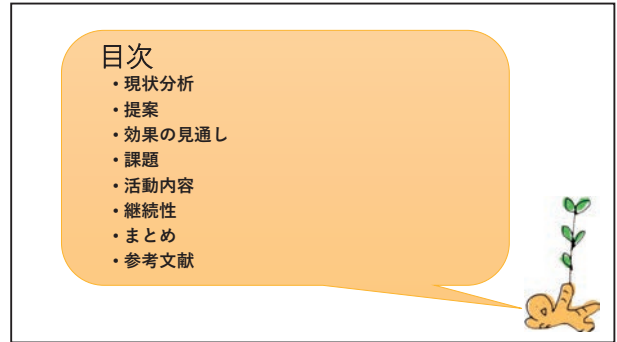


参考文献

- [1] 八王子市公式ホームページ
(<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)
- [2] 大学コンソーシアム八王子学生企画事業補助金
(<https://gakuen-hachioji.jp/main-business/kikakuhojo/>)
- [3] パティスリーメゾン
(<http://p-maison.la.cocan.jp/>)



1



2



3



4



5



6



7



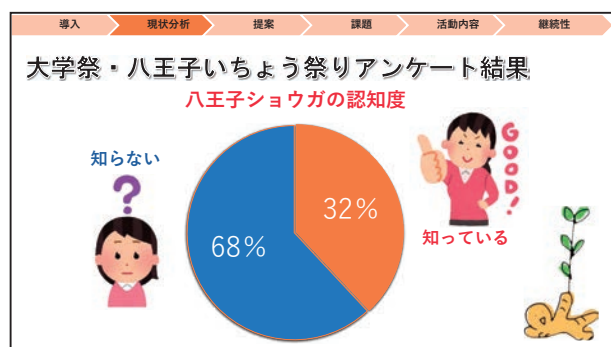
8



9



10



11



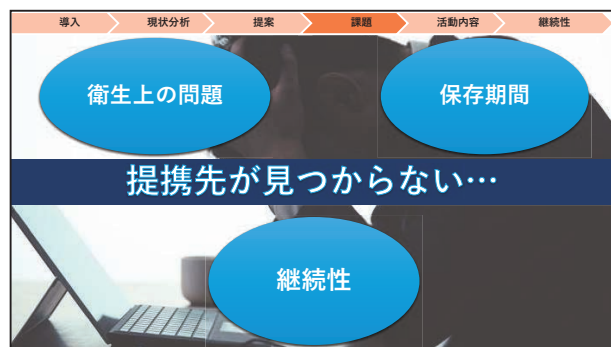
12



13



14



15



16

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

提携先 パティスリー・メゾン

スイーツで八王子の魅力を発信

八王子パッションフルーツスティックケーキ

17

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

試作品

ジンジャーパウンドケーキ
ジンジャーチーズケーキ
ジンジャークッキー
ジンジャードーナツ

18

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

課題

時期 ・八王子ショウガの旬(8月中旬～9月下旬)により販売時期が限られる

差別化 ・他県産の生姜とどう差別化するか

19

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

課題①

生姜の保存が利かない

保存期間を長くしたい

砂糖煮に加工

20

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

課題②

成分が違うのでは…?

フローラルウォーター

21

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

課題②

高知県生姜

八王子ショウガ

甘み成分が多い

シヨ糖

二糖類

22

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

製造中…

23

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

大学祭(白鳥祭)

2日間で計400個
完売!

24

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

ポスター

はちおうじ生姜力
ハ王子ショウガ
はちおうじ生姜力
ハ王子ショウガ

25

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

道の駅販売

地域の方の生の声も聞けた！

3時間で計40個完売！

改善点が見つかった！

26

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

生姜の風味をもっと感じたい！

少し硬く食べにくい

27

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

アンケートを元に改良

八王子産はちみつ使用！

28

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

完成

スノーボールクッキー

マドレーヌ

ジンジャークッキー

29

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

いちよう祭り

2日間で計240個完売！

30

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

セット商品

セット内容

- ・ジンジャークッキー 2個
- ・ジンジャースノーボールクッキー 1個
- ・ジンジャーマドレーヌ 1個

ご好評をいただきました！

31

導入 現状分析 提案 課題 活動内容 継続性

MICE事業

帝京大学 小笠原研究室が行うツアーでお土産品として扱っていただくことが決定

ジンジャークッキー、ジンジャーマドレーヌを各20個販売する予定です！

32



33



34



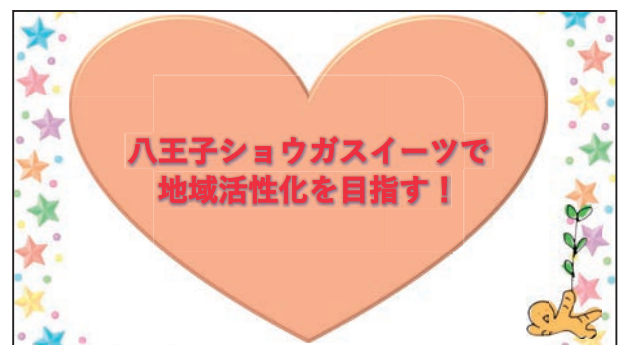
35



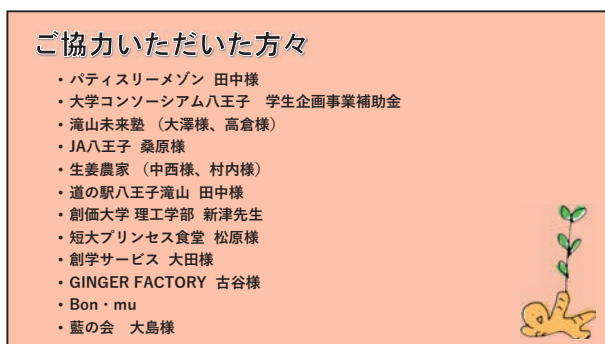
36



37



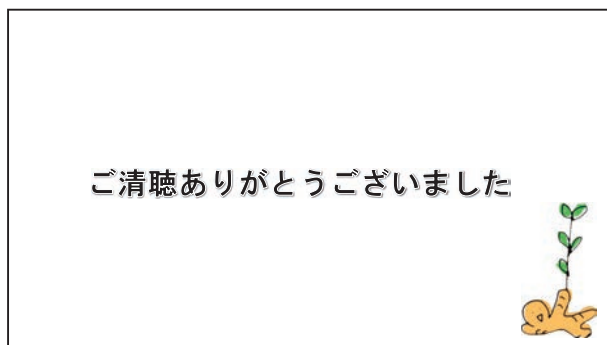
38



39



40



41

担当教員まとめ

この提案・研究は、大学コンソーシアム八王子学生企画事業補助金に採択されたところから実現化に向けて動き出すことができた。昨年度先輩たちの「八王子ショウガを使った商品開発事業(バスボム)」を見ながら、八王子ショウガの可能性に注目し、スイーツによる商品開発を計画。多くの試行錯誤を経て、クッキーやマドレーヌなどへたどり着いた。

様々な方々の応援や協力を経て、商品化まですることができた。特にパティスリーメゾンの田中様並びに地元・滝山未来塾の方々には大変にお世話になった。また、創価大学理工学部の新津先生による八王子ショウガの甘みが強いという分析結果からこのショウガの特徴をしっかりと捉えることができた。このように地道な研究・開発をコンペティションでは評価していただき、「優秀賞」をいただいたことは更なる自信に繋がることになった。

4人のチームワークはもちろん素晴らしいものがあったが、一人ひとりが就職や進路への挑戦を重ねながら、白鳥祭やいちょう祭り、道の駅などでの販売を経て、多くの方々の意見をよく聞いて、地域貢献のためという心を込めたことでいいものに仕上がったと考えている。今後、八王子発の学生企画のお土産品としての評判を期待したい。

創価女子短期大学 水元研究室 ◆担当教員 水元昇

第4章

出場団体概要

第6回

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019

出場団体一覧

401教室（28号館4階）.....52

◆キーワード プログラミング 児童館 ◆対象地域 東久留米市

No.1	亜細亜大学 平井ゼミ チームあおぞら
	タブレットで絵を動かそう ビジュアルプログラミングソフト・Viscuitを使った児童館でのプログラミング体験

◆キーワード 防災 ◆対象地域 八王子市

No.2	帝京大学 湯川ゼミ 防災班
	遊びながら学ぼう！八王子の防災 安心して暮らせる町へ

◆キーワード 地域活性 ◆対象地域 八王子市

No.3	法政大学 水野研究室 チーム・シビックプライド
	子ども達とともに育てるシビックプライド クリエイティビティに着目した八王子市のシティプロモーション

◆キーワード 学生と企業のマッチング ◆対象地域 多摩地域全体

No.4	明星大学 EADS（イーズ）
	多摩420万人会議 小さな好奇心は世界を変える

タブレットで絵を動かそう

ビジュアルプログラミングソフト・Viscuitを使った児童館でのプログラミング体験

プログラミング 児童館

◆メンバー 長岡憲史 熊澤亮 宮廻佳幸 ◆担当教員 平井文三

まちづくりの目的・概要

現在、社会全体の傾向として、様々な場面においてプログラミング教育が重要視されてきている。

その一例として文部科学省より、令和二年度から実施される新学習指導要領が公表され、プログラミング的思考を育成するためのプログラミング教育が必修化されることとなっており、それに先行してプログラミング教育を実施する学校が増えている。

本ゼミでは、東久留米市児童館でのボランティア活動を通して、上記の学校教育とは別に、「遊びながら学習する」という方法でプログラミング体験学習を行い、それによって地域の活性化につながるのではないかと考えた。

効果の見通し

プログラミングアプリ「Viscuit」は、「絵を動かすだけという非常にわかりやすく、しかし奥深い」そんなプログラミングアプリとなっており、子供たちが自分から進んで取り組むことで、子供自身の成長に繋げることができるものとなっている。また、児童館にて配布されるお便りや、活動を体験した子供から保護者、保護者から別の人への口コミなど、より多くの方へこの活動を知っていただきやすい環境下で活動を行うことで、より多くの方にプログラミング教育を知っていただくことができる。

継続性の見通し

本ゼミのプログラミング体験活動は、児童館の設置者である東京都東久留米市、指定管理者である株式会社明日葉と本学の連携協定に基づいて実施しているため、活動の継続は可能である。

またプログラミング教育ソフト「Viscuit」は、インターネット環境さえあればパソコンだけでなく、スマートフォン・タブレット端末があれば無料で簡単にできるため、費用は掛かりにくい。さらにこの活動により子供たちが、今後独力でさらに進んだ別のプログラミングソフトに触れるための基礎を固める機会にもなり、将来の活性化に向けて貢献できると考えている。

先行研究・連携団体

東久留米市、株式会社明日葉、

文部科学省ホームページ「新小学校学習指導要領」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1375607.html

『できるキッズ子どもと学ぶビスケットプログラミング入門』（合同会社デジタルポケット2017年）

『園児・小学生からはじめるプログラミング ビスケットであそぼう』（合同会社デジタルポケット 2017年）

まちづくりのアピールポイント

インターネット環境さえあればスマートフォン、タブレット、PCなどどの端末でも遊ぶことが可能なため、最小限のコストで楽しくプログラミング学習をすることができ、プログラミング言語では珍しく、アルファベット等英語も一切使用しないビジュアルプログラミングであるため、子供だけに留まらず、どの年齢層でも楽しむことが可能である。

遊びながら学ぼう!八王子の防災

安心して暮らせる町へ

防災

◆メンバー 御所和也、増子拓紀、荒木恵太、伊藤美優、杉山実南 ◆担当教員 湯川志保

まちづくりの目的・概要

私たちは、災害に強いまち八王子市をアピールすることでまちの活性化を行うことを目的としています。八王子市は高尾山など自然に恵まれた市である一方、土砂災害の危険性がとても高い市でもあります。そこで上述した目的を達成する第1歩として、文部科学省から小中学生を対象に推進されている「防災教育」に焦点を当て私たちは活動を始めました。小中学校では、防災を専門的に教える科目は存在しておらず、防災訓練など学ぶ機会が限られているのが現状です。そこで私たちは、防災に強いまちづくりの第1歩として、小学生を対象にイベントを開き、子どもたちに防災に関する知識を深めてもらうとともに、このイベントを通じて保護者の方にも防災について関心を持って頂くことで、私たちの目標である災害に強いまちづくりを推進していきたいと考えています。

効果の見通し

防災教育という点に焦点をあて、災害につよいまちづくりを行うことで以下の効果が見込めると考えます。①近年の自然災害の多さにより、子どもたちが防災への知識を深めることに関心のある子育て世帯が多いことが予想されるため、他の市であまり浸透していない防災教育を推進することで子育て世帯を八王子市に移住させることが期待できる。②防災に関する知識を深めるとともに意識を高めていくことは、八王子市をつくる構成員である住民が安全に生活していくという基本的かつ重要な点をみとらすことができると考えています。

継続性を見通し

防災教育は文部科学省から推進されていることもあり、防災は行政からの協力も得やすいと考えます。また、自然災害がおきやすい日本では防災というのは必要不可欠なものであるため防災グッズなどを開発している企業との連携も強く見込めると考えられます。

先行研究・連携団体

八王子市公式ホームページ「災害の記録」、文部科学省「防災への取り組み」

まちづくりのアピールポイント

防災に強いまちにするための第1歩として、文部科学省も推進している防災教育に焦点をあて、災害時に被害にあう可能性が比較的高い子どもたちに、防災に関する知識を楽しく学んでもらえる企画になっています。まず、始めの一歩ということで私たちは柚木東小学校様にご協力いただき小学6年生に向けて防災意識についてのアンケートをとらせていただきました。そのアンケートを元に「子供たちと楽しく学ぶ」というのをテーマに防災についてのゲームを考え、実際に小学生たちと一緒にゲームをして防災について知識を深めていきました。

子ども達とともに育てるシビックプライド

クリエイティビティに着目した八王子市のシティプロモーション

シティプロモーション シビックプライド クリエイティビティ

◆メンバー 河部文哉、本間顕、市村知詩、銀吉屋僚太、八下田瑞穂 ◆担当教員 水野雅男

まちづくりの目的・概要

シティプロモーションには、定住・交流人口増大の他にシビックプライドを醸成するねらいがある。八王子市のキャッチコピーは「都会にないもの、田舎にないもの、ここにある」が掲げられているが、果たして市民はプライドを感じるだろうか？市民が大切にしたいモノ、他の都市にはない独自性を、行政主導ではなく、将来を担う子ども達が再確認し、発信していくプロセスを取ることで、着実にシビックプライドを醸成していく。

効果の見通し

子ども達から家族、そして地域社会へ。今まであまり着目されてこなかった工場やアトリエの様子を観察し、クリエイターの話聴き、自らものづくり体験する。子ども達が八王子の魅力・独自性を取材して周り、その様子をプロモーション動画やSNSで情報発信する。そういった地道な活動を通して、子ども達が体感した街の様子や感動は市民の間に着実に広がっていく。

継続性を見通し

以下の3点で継続性を担保できると考えている。

- 1) 子どもレポーター：有志参加する子どもレポーターは友達を巻き込みながらスタッフを拡充していく。
- 2) クリエイターのネットワーク：クリエイターから友人クリエイターを紹介してもらいながら、取材対象のネットワークを無理なく広げられる。
- 3) 自転車とカメラ：取材道具は軽微なモノであり、特別の道具を要しない。

先行研究・連携団体

先行研究：「八王子市のシティプロモーションの課題」として、全国に59ある中核市のシティプロモーションの実態比較と、八王子市民を対象にアンケート調査を実施した。その結果、八王子市は行政主導でHPと動画配信中心であり、シビックプライド醸成を目的としているが、キャッチコピーの認知度が約1割と低く、市民が誇りと感じているものを表現していないことが明らかになった。

連携団体：NPO法人 AKITEN（クリエイターのネットワーク紹介）

まちづくりのアピールポイント

- 1) 草の根からシビックプライド醸成：市民主体で、しかも子ども達が自分たちの街の特徴を再確認し、発信するというスタイルはシビックプライドを醸成するのに相応しい。
- 2) 八王子市の隠れた資源性に着目：繊維の街として栄えてきた産業基盤とその遺伝子、芸術系デザイン系クリエイターを輩出する高等教育機関が集積しているなど、周辺の消費型都市にはない「クリエイティビティ」というポテンシャルを提示している。

多摩420万人会議

小さな好奇心は世界を変える

学生と企業のマッチング

◆メンバー 呷崎孝太、上田悠平、安藤瑞穂、佐藤稔昌、小松蒼人 ◆担当教員 波田野匡章

まちづくりの目的・概要

私たちの目的は、学生が多摩地域の企業に志望して就職してもらうことです。

現在、多くの学生が有名企業への内定を目指し就職活動に励んでいます。一方で、地元企業へ積極的に就職しようとする学生は少数です。原因としては、学生からの知名度がないことが挙げられます。そこで私たちは、学生が多摩地域の企業に関心を持ち、就職したいと思えるように、学生と企業が近い距離間で交流ができる環境を作りたいと考えました。

効果の見通し

学生と地元企業が近い距離間で交流することで、学生側のメリットとして地元企業の認知、理解をすることができます。また、学年問わず参加できるので早い段階から就職活動を始めることができます。企業側のメリットとしては、学生のニーズを知る事ができ、交流した学生に直接アプローチをかけることができます。さらに、参加者を限定せずに交流をすることで幅広い年齢層の方や、異業種の方との関係を作る事ができると考えます。

継続性を見通し

交流イベントは各大学（ゼミやサークルなど）が持ち回りで企画、運営します。イベントのノウハウがわかれば、場所の確保と集客次第によって一か月でイベントの開催ができると考えます。

長期的に交流をすることによって企業の認知度の向上や学生、大学との関係を築くことができます。学生もこの交流を通じて、多くの社会人との接点を持てるので学生生活の中では気が付かなかった価値観や考え方を身に着けることができると考えます。

先行研究・連携団体

参考文献：多摩地域の採用等実態調査報告書（多摩信用金庫）

参考：SoLaBo 異世代・異業種の人材育成の場を創造し、さまざまなワークショップを企画・運営をしています。血が出会う、気持ちいい刺激！「ナレッジ・ミキサー」（HPより）

まちづくりのアピールポイント

このイベントは、セッションパートと、交流会パートの2つを半日かけて行います。

ワークショップ形式で、各大学の運営チームが考えたテーマに沿ってセッションを行います。多くの人とセッションするために途中で席替えをします。また、ルールとして社会人と学生がフラットな立場で意見交換をする。と決めることで、学生が委縮せずに意見を述べることを目指します。交流会では、飲食しながら自由に対話し、個人間でより深い関係を築くことができます。

402教室 (28号館4階).....57

◆キーワード 地域活性化 Tschool 立川レモンプロジェクト ◆対象地域 立川市

No.5	明星大学 森屋ゼミ HERO'S
	レモン香る立川へ 地域産業から始まる地域活性化

◆キーワード エコ・モビリティ ◆対象地域 多摩市、日野市、八王子市

No.6	帝京大学 石川ゼミ グリーンサイクル
	これから、エコが街を走ります シェアサイクルが繋ぐ多摩の道

◆キーワード 観光 ◆対象地域 青梅市

No.7	帝京大学 湯川ゼミ 青梅班
	日本の田舎町に行こう！ ～Natural tourism in Ome～

◆キーワード 社会参加 モラトリアムシニア コミュニティ情報発信サイト ◆対象地域 八王子市

No.8	創価大学 安田ゼミ Amor
	誰もが地域とつながりを持てる社会へ Love the life you live, live the life you love.

レモン香る立川へ

地域産業から始まる地域活性化

地域活性化 Tschool 立川レモンプロジェクト

◆メンバー 小田ゆな、小林雅、佐藤凱斗、高橋進司、松田風香、渡邊玲男 ◆担当教員 森屋一訓

まちづくりの目的・概要

現在、立川では「立川レモンプロジェクト」という事業が行われています。この事業は2018年西日本豪雨によって土砂・浸水被害に遭われた広島県呉市で栽培されている「とびしまレモン」を立川で栽培し、「立川レモン」として国産レモンの販売を行う事業であり、立川市商店街連合会で行なっているものです。私たちはゼミのテーマである「地域活性化」に基づき、立川レモンプロジェクトに協力させていただき、立川の地域活性化の一助と成るべく取り組みを行っております。

効果の見通し

私たちが与えられる効果として、「立川といえばレモン!」と思い浮かべてくれる方が増えることだと考えます。立川レモンプロジェクトを広めるためにレモンをイメージしたオリジナル商品を販売しているなかで、お客さまと直接会話をしたり、チラシ配りを行い立川レモンの成り立ちを知ってもらいきっかけづくりをしました。発信したことにより、この活動を応援してくれる方や立川により関心を持ってくれた方が立川の素晴らしさを知ってくれる機会になると思います。

継続性の見通し

私たちは現時点において、更なるイベント出店やネット販売などにおいて継続していけると考えています。まちづくり立川、立川レモンプロジェクトをもっと多くの方に発信していくために、キャップ、トートバック、その他新たなグッズの販売も視野に入れています。また、今は立川に植樹したレモンの木が未熟なためレモンの収穫ができていませんが、2023年に立川レモンが収穫できるようになれば、我々のできることの幅もこれから増えていきます。立川レモンの未来と共存していくと考えます。

先行研究・連携団体

立川レモンプロジェクト「<https://tachikawa-lemon.jp>」

まちづくり立川「<https://www.tachi-machi.com>」

Tschool「<https://tschool.tokyo>」

立川市商店街連合会「<https://www.tachikawa-shoren.com/news/1029/>」

立川南口ワンダーランド「<http://tachikawa-minami.com/event.html>」

鬼うまフェス「<https://www.tachikawa-shoren.com/event/1199/>」

たちかわ楽市「<http://www.tachikawa-chiikibunka.or.jp/b10-20191103/>」

まちづくりのアピールポイント

私たちのアピールポイントは、立川レモンプロジェクトを広めるための商品をプロデュースし、自分達で作成し各種イベントにて販売したことです。立川の創業支援を行なっている「Tschoool」というファブスペースにて産学連携させて頂いて、立川を広めるためのオリジナル商品を開発し立川のイベントにて販売してきました。イベントでは立川レモンの宣伝をすると同時に、地域交流を図ることが出来ました。学部内でも地域貢献を目的とした商品製造・販売を行っているゼミは珍しいと思います。よって、自分達でプロデュースして商品販売をしたことがアピールポイントだと考えます。

これから、エコが街を走ります

シェアサイクルが繋ぐ多摩の道

エコ・モビリティ

◆メンバー 松井隆哉、篠崎敢太、岩坪大輔、野村祐輔、楠本航紀、嶋田哲也、大村将太、大久保和輝、新木勇仁、江波戸彩香、半間成貴、成澤拓海、木下拓海、仲野汐音 ◆担当教員 石川正史

まちづくりの目的・概要

多摩地区の人口減少対策として私達は地域の住民や学生の為に電動アシスト自転車を使ったシェアサイクルを提案します。地域内の駅や大学に乗り捨て可能な電動アシスト自転車を配備し、住民（含む通勤者）と通学者を中心に自由に借り出しと返却が出来る移動手段の提案です。通勤者には自宅と最寄り駅間の移動手段として、学生には、バス通学の恒常的な混雑と、将来的な運転手不足が懸念される中での、通学オプションとして提供します。

効果の見通し

シェアサイクルを活用するメリットは、一つ目に地域住民・通勤者・通学者に自由で環境に優しく安価な移動手段が提供できること、二つ目はCO₂を排出しない自転車を利用することで地球温暖化防止に貢献できること、そして最後に、この構想を事業化することで、事業主体のみならず、関連小売・サービス業等の地域経済への貢献が可能となります。これらにより、活気溢れる緑豊かな多摩地区を次世代に残すことが出来ると考えます。

継続性の見通し

事業化実現の為に市民と学生の利用の両立が不可欠であり、その実現を目指します。将来的には、通勤者の為に駅周辺のサテライトオフィスとのコラボや、通学者の為に①帝京大学以外の近隣大学へ展開するスケールメリット、②最寄り駅と大学間の自転車専用道路整備による安全性と快適性の向上、を狙います。本件は（株）ドコモCSとの共同研究として推進し、当ゼミにおいても、継続研究案件として来年度以降も取り組んでいく方針です。

先行研究・連携団体

シェアサイクル事業：（株）ドコモCSより、シェアサイクル事業運営に関する指導・助言を頂いた。

ポート整備：多摩市役所・日野市役所・帝京大学より、ポート設置に関する情報を頂いた。

放置自転車活用：多摩市役所・日野市役所より情報を頂いた。

多摩地区のシェアサイクル事業現状：地元NPOや地元事業者より情報を頂く予定。

多摩中央警察署：自転車走行の安全に関するアドバイスを頂く予定。

サテライトオフィス：京王電鉄株式会社より情報を頂く予定。

まちづくりのアピールポイント

シェアリングエコノミーと地球温暖化対応が進み、一方では運転手不足が深刻化しています。そのような環境下で、①多摩地区で普及が遅れているシェアサイクルを市民の方に、特に通勤者に提供する、②バス通学への依存を適正化し、健康で環境に優しい移動手段を新たな選択肢として学生に提供する、③将来的にはポートとサテライトオフィスを併設することで、新たな働き方と移動の組み合わせを実現する、ことにより、事業化を追求します。

日本の田舎町へ行こう!

～ Natural tourism in Ome ～

観光

◆メンバー 諸川拓海、小倉亮、鷹野愛理、伊藤りさ ◆担当教員 湯川志保

まちづくりの目的・概要

2020年に行われる東京オリンピックの開催に伴い、外国人観光客の大幅な増加が見込まれ、人気の観光地は知名度のある地域に集中してしまっている現状がある。そこで、青梅市民と外国人観光客へのアンケートをもとに知名度の高い御岳山を主体としたツアーを企画、実施するとともに外国人観光客誘致にむけて必要な整備等についての提案を行うことで穴場観光スポットとして青梅市を外国人観光客にアピールしたい。

効果の見通し

前述した活動により、以下の効果が見込める。

- ①青梅市の外国人観光客動員率上昇による、既存の店舗の収益の増加。
- ②日本の観光地渋滞の緩和
- ③外国人観光客増加により、シャッター街になってしまった商店街へビジネスチャンスを求めて流入する若年層人口の増加による少子高齢化の緩和。

継続性の見通し

青梅市が誇る御岳山は都内有数の登山スポットであり、事前に実施したアンケートの回答でも御岳山に興味を持つ外国人は多いということが判明していることから、私たちは留学生を対象に御岳山を中心としたモニターツアーを企画している。このツアーから得られた参加者の意見や外国人観光客に実施したアンケートをもとに青梅市文化交流センターの方と連携を取りながら外国人観光客誘致について企画をすすめていくことで企画を継続させていけると考える。

先行研究・連携団体

協力団体：青梅市文化交流センター

出典：青梅市ホームページ、西多摩地域入込観光客数調査報告書

まちづくりのアピールポイント

外国人観光客へのアンケートを実施した結果、彼らの行ってみたいと思っているスポットと青梅市の観光資源がマッチしていることが分かっており、この企画を実施することで外国人観光客を青梅市に誘致することが可能であると考えられる。

誰もが地域とつながりを持てる社会へ

Love the life you live, live the life you love.

社会参加 モラトリウムシニア コミュニティ情報発信サイト

◆メンバー 西尾ひとみ、榊原りほ、矢島直美、安次嶺春華、長谷川耀、松永心、リュウキ ◆担当教員 安田賢憲

まちづくりの目的・概要

私達が目指すまちは、「高齢者が自分の居場所を見つけ、生きがいを持って暮らせるまち」であり、そのためには高齢者の「社会参加」を促すことが不可欠である。私達は社会参加をしたいという気持ちを持つものの、参加には至っていない高齢者（≡モラトリウムシニア）に向けて「地域のコミュニティまとめサイト『AmorConnect』」を提供することで社会参加を促す。本サイトでは、コミュニティと高齢者をマッチングするために様々な仕掛けを考えている。

効果の見通し

本サイトによって多摩地域在住の高齢者の社会参加率が向上すれば、社会福祉関連の経費削減を見込むことができる。一般に、社会参加している高齢者は、生きがいを感じる割合が30%向上し（内閣府2017）、認知症は22%減少するという（経産省2018）。また社会参加している人はしていない人と比較して、医療費・介護費が3年間で一人当たり47,791円低い。私達の取り組みがうまくいけば、多摩地域の社会福祉関連の費用は3年間で最大177億円の削減が期待できる（吉田裕人らの研究を参考に独自算出）。

継続性の見通し

私達は6人でサイト運営、提携コミュニティ・企業交渉等の役職を分けて活動しており、卒業まで全員で継続していく予定である。今後は他の多摩地域のコミュニティを2021年1月までに427団体獲得する予定であり、現在は30団体と八王子市で協力して頂けないか交渉中である。またユーザー獲得に向けて、八王子市協力の下、八王子市内19箇所でPRが決定しており、現在は学園都市センターと八王子市内の企業でチラシを配布している。

先行研究・連携団体

Amor Connectに協力して頂いたコミュニティ:53団体

協力して頂いた方々:計30名 東京都健康長寿医療センター藤原様、はちコミねっと運営責任者田中様、八王子市学園都市センター中野様（PR協力）等

経済産業省(2018)「将来の介護需給に対する高齢者ケアシステムに関する研究会」

株式会社ビデオリサーチひと研究所編著（2017）「新シニア市場攻略のカギはモラトリウムおじさんだ!」

ダイヤモンド社 等

まちづくりのアピールポイント

私達は高齢者380人にヒアリング調査を行い、その情報を元に本サイトを作成した。さらに本サイトの有効性を図るため、競合サイトと比較してABテスト調査を50人に行った。「字が大きく見やすい、写真やレビューがあるから雰囲気も伝わりやすい。」等の好意的な声を50人中48人から頂いた。現在、八王子市にPRの協力を頂いており、多摩地域の他の市区町村でもPRや活動協力して頂きたい。また、資金獲得できた場合は本サイトを拡大していくための営業費、広告費等の活動費に充てたいと考えている。

◆キーワード 防災 避難所 乳幼児 ◆対象地域 八王子市

No.9	法政大学 水野研究室 TEAM Emergency
	キャンプ・イン・キャンパス 乳幼児を抱える家族が快適に過ごせる避難生活の提案

◆キーワード SDGs LGBT ジェンダー ◆対象地域 多摩全域

No.10	駒澤大学 青木ゼミ まちコンプロジェクト
	すべての人が自分らしくいきるまちづくり ジェンダーフリーの先駆けを多摩で！

◆キーワード 外国人技能実習生 外国人技能実習制度 オンライン教育 ◆対象地域 八王子市

No.11	創価大学 安田ゼミ OMNIBUS
	外国人技能実習生の日本語能力向上を促進！～Japanative Project～ 企業と技能実習生の双方にとって、技能実習制度がより価値あるものに

◆キーワード レジャー ◆対象地域 多摩市

No.12	帝京大学 湯川ゼミ 映画班
	OUTDOOR THEATER in Tama City 多摩市の活性化を目指して

キャンプ・イン・キャンパス

乳幼児を抱える家族が快適に過ごせる避難生活の提案

防災 避難所 乳幼児

◆メンバー 宇元望、大城里奈、竹端樹那、吉田実由、矢野隼也、山中夏実 ◆担当教員 水野雅男

まちづくりの目的・概要

近年、自然災害が多発しているが、小中学校の体育館等における避難所生活スタイル（集団で雑魚寝）は80年前と変わっておらず、特に乳幼児を抱えた母親の肉体的・精神的負担が深刻である。母と子にとって暮らしやすい「新たな避難生活スタイル（家族単位で、屋外で、自主性のある生活）」を提案する。キャンプ関連企業や地元産業、幼稚園などと連携したコンソーシアムを構築し、大学キャンパスを災害時にも地域に開放することを提案する。

効果の見通し

大学キャンパスを新たな避難所として位置づけることは、以下の三点の効果が期待できる。①体育館等の避難所の収容力が不足していることを補える、②屋内での生活に馴染めない属性の市民を救える、③21大学が集積している八王子市の避難拠点としてのポテンシャルが高まる。また、今回のようなキャンピング社会実験を定期的に開催することで、乳幼児とその母親に加え、地域全体の防災意識が高まり、災害時の円滑な避難所運営が可能になる。

継続性を見通し

下記の協賛企業群からは、事業の必要性が認識され、安定的かつ継続的な支援が得られる見込みである。当事者である地域住民が主体性を持って取り組める事業となるように、幼稚園と大学が連携して社会実験を行う予定である。その社会実験での地域住民の意見を取り入れながら、避難が想定される時期・時間帯など様々なシチュエーションに合わせて、年に数回程度の定期開催に繋げていく。

先行研究・連携団体

「乳幼児とその母親に着目した避難所課題検討～八王子市と他都市との比較研究～」として、国の避難所運営ガイドラインに基づいた自治体の避難所運営マニュアルを、三都市で比較研究した。その結果、具体的なレイアウトや運営面での女性参画が八王子市の課題であることが明らかになった。

実証実験の協賛：(株) モンベル（テント等）／WOTA（株）（シャワーパッケージ）／(株) アンドファームユギ（近郊農場）／oxygen（多摩産材活用デザイン）

まちづくりのアピールポイント

- ①従来の避難所生活に不便を感じている属性の中で、自らの研究結果から乳幼児を抱える家族に絞り込んでいる。
- ②居心地の良い「新たな避難生活スタイル（家族単位で、屋外で、自主性のある生活）」のあり方を提案している。
- ③多摩ならではの広大な大学キャンパスを地域に開放して、避難生活の地域資源と捉えている。
- ④キャンプ関連企業や地元企業の協賛と幼稚園の協力も得ながら、継続的に社会実験を積み重ねていくことができる。

すべての人が自分らしくいきるまちづくり

ジェンダーフリーの先駆けを多摩で！

SDGs LGBT ジェンダー

◆メンバー 平出崇登、片口太一、青木美都、荒木理佳 ◆担当教員 青木茂樹

まちづくりの目的・概要

現在LGBT層に該当する人は日本にいる左利きの人とほぼ同じ割合だと言われています。しかしLGBT層は生活するうえで様々な問題がありますが、サポート制度は進んでいません。また、ジェンダーギャップ指数は110位でG7で最下位です。それを解決するために私たちは大きな公園が多く大学も多いという多摩の魅力を生かしたいと考えました。そこでより良い社会作りを目指すためにジェンダーフリーイベントを企画し、“地域の個性を尊重した発展”を目指します。

効果の見通し

このイベントを通してジェンダーギャップ、LGBT問題を多摩地域の人々に広く知ってもらうことができます。そうすることで実際に自分自身に疑問を持っていた人々が多摩地域で生きやすい人生を送れるようになると思います。また将来的に男女、LGBT層問わず住みやすい地域ができることで、減少傾向だった多摩地域への移住が考えられ、人口増加、空きや問題の解決が可能で、子供達が男女問わず活躍できる未来を実現できると考えます。

継続性を見通し

ここ数年でジェンダー問題についての情報は増加しているが、ジェンダーギャップやLGBT問題についての認知度はまだ高いとは言えない。男性/女性はこうあるべきという価値観がまだ私たちにはあり、ジェンダー平等についての課題はまだある。しかし、今後ジェンダー問題を抱えた人は増加すると思われる。この状況はダイバーシティに富んだ街とはまだ遠い。すべての人に正しい知識を。そして、すべての人が住みやすく、生きやすいと感じるまでこのイベントは必要であり、継続していくことが可能であると考えます。

先行研究・連携団体

https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2017pdf/20171109003.pdf

『LGBTの現状と課題— 性的指向又は性自認に関する差別とその解消への動き —』

https://nw-tama.jp/wp-content/uploads/activities/2018forum_honbun.pdf 『多摩未来創造フォーラム2018年度報告書』

<https://www.komazawa-u.ac.jp/news/research/2018/0511-6659.html> 『東京レインボープライド 2017 来場者アンケート調査』 報告書』 など

イベントを行うにあたって公園等の場所が必要なため、公園を管理する団体が連携団体として必要である。

まちづくりのアピールポイント

このイベントは多摩地域の公園などの資源を使って多くの人にジェンダー問題を知ってもらいます。イベント内容としてジェンダーギャップのある職業体験（男の人のネイリストさんなど）やLGBTの内容の野外映画鑑賞といった五感を使った、多くの人に楽しんでもらえるイベントになっています。日本で遅れている社会問題であるジェンダーギャップ、LGBT問題を多摩地域が社会問題に前向きに取り組むことで、多摩地域がダイバーシティ先進地域になることを目標にします。

外国人技能実習生の日本語能力向上を促進!

～Japanative Project～

企業と技能実習生の双方にとって、技能実習制度がより価値あるものに

外国人技能実習生 外国人技能実習制度 オンライン教育

◆メンバー 高山優果、木場瑛穂、松田哲平、小早川桜、疋田陽子、井上歩泉、古市秀生、西山良美 ◆担当教員 安田賢憲

まちづくりの目的・概要

(株)帝国データバンク(2016)より、多摩地域の人手不足は全国の中でも深刻である。昨今、人手不足対策として外国人技能実習生を受け入れている企業が増加傾向にあるが、独自調査より、実習生の日本語能力が低いと業務理解が進まず、労働生産性が企業の想定より低くなり、人手不足の解消に至っていないことがわかった。このような多摩地域の問題を解決すべく、実習生の日本語能力向上を目指すサービス「Japanative」を提案し、多摩地域の企業が今まで以上に高付加価値を生み出すことを支援する。

効果の見通し

見崎(2018)は「技能を習得するためには日本語能力を伸ばすことが効率的である」と述べている。私達は日本語能力向上により技能習得度を向上させることで、業務の質が向上し多摩地域の人手不足解消に至ると考え、サービスを設計した。3社4名の実習生にJapanativeを利用してもらったところ、全員が、企業の求める日本語レベルである日本語能力試験3級に達し、内1名は4級から2級まで向上した。よって、本サービスは日本語能力向上に効果的であり、業務の質の向上によって多摩地域の人手不足解消に資するといえる。

継続性の見通し

私達はJapanativeの事業化を予定している。まずサービスのブラッシュアップのために2020年1月からサイト上で試験運用し、2021年4月に起業予定である。これまでのFS調査より企業の潜在的ニーズがあり、2020年7月には黒字化できると見ている。また2021年3月までは全員で活動を行うが、それ以降はチームメンバーの1人を中心に活動を行っていく。他7名のメンバーに関しては、就職後の副業として営業やポータルサイトの管理を行っていく。

先行研究・連携団体

見崎(2018)「外国人労働者の日本語能力が技能習得に与える影響—建設産業を事例として—」

<http://www.3.grips.ac.jp/~up/pdf/paper2018/MJU18713misaki.pdf>

Christian Dustmann and Francesca Fabbri (2003)「Language Proficiency and Labor Market : Performance of Immigrants in the UK」『The Economic Journal,133』

Barry R Chiswick and Paul W Miller (1990)「Language in the Labor Market : The Immigrant Experience in Canada and United States」, Economics Department, working paper 784

施策のブラッシュアップや効果検証に関する協力先

(アジア経営人材支援事業協同組合・協同組合アジアリンク・株式会社イチマル・株式会社黒澤製作所・佐藤建設管理株式会社・中央職業能力開発協会、を始めとする計16団体)

まちづくりのアピールポイント

私達はこれまで、実習制度に関わる方々への電話やメールを1030件、訪問を27回行い検証などを進めてきた。また実習生や企業と関わる中で、この社会問題を解決したいという想いが大きくなり、今回の提案に辿り着いた。9月14日に行われたユネス&ユーザー・ソーシャルビジネスデザインコンテストでは学生部門で優勝し、企業賞を2つ頂いたと共に、審査委員長から「大変優れたプロジェクトである」との評価を得た。本大会でもJapanativeの必要性を訴え、今後多摩地域の企業と実習生に貢献していきたい。

OUTDOOR THEATER in Tama City

多摩市の活性化を目指して

レジャー

◆メンバー 豊泉佳祐、中澤悠汰、安倍廉、大島拓、富士原拓磨 ◆担当教員 湯川志保

まちづくりの目的・概要

近年、若年層を中心に注目を集めているイベントである野外上映会を多摩中央公園で開催することで、若い層を多摩市に呼び込み地域活性化を図る事を目的とする。若い層のSNSへの投稿、拡散力を利用し多摩市の知名度向上をねらう。現在、多摩市の商店街は少子高齢化や大型商業施設の立地により衰退の傾向にある。そこで、野外上映会を開催し、商店街の収益の増加につなげるとともに、上映会の様子や多摩にある店舗などについてSNSに投稿してもらうことで多摩市の活性化につなげる。

効果の見通し

野外上映会は2018年には都心を中心に開催され、多くの来場者の獲得に成功している。上述した現状と我々が企画している上映会の入場料は無料であること、開催場所は駅からのアクセスもよいことなどを考えると1000人前後の集客が見込める。また若い層の利用するSNSでの拡散力を用いる事で、集客率向上が期待できる。さらに、商店街や市役所と連携し、屋台を出店することができれば商店街復興への経済効果を生み出すことが予想できる。

継続性の見通し

多摩市ではこれまでもパルテノン多摩主催での野外上映会を実施していることから、野外上映会を実施しやすい地域であると考えられる。また、予算の関係上、上述した上映会を継続できていないが1000人集客している実績があることから、野外上映会への需要は高いと考える。クラウドファンディングなどで費用を捻出すること、第一回の上映会を開催し、集客数や経済効果に関するアンケートを実施し、その結果をアピールすることで協賛企業を集めることにより、上映会を継続して行えるのではないかと考える。

先行研究・連携団体

参考文献：多摩市ホームページ

連携団体：多摩市役所

まちづくりのアピールポイント

野外上映会は若年層から人気の高いイベントであり、レジャーと映画鑑賞の融合による特別な雰囲気を演出できれば、最近の流行りであるインスタ映え効果、SNSによる宣伝効果に期待できる。また、クラウドファンディングの返礼品を多摩市の特産品にすることで多摩市を宣伝できる。さらに、この企画が実現できれば、商店街の店舗の収益増加や多摩の自然の素晴らしさについても知ってもらえる機会になると考える。

406教室 (28号館4階).....67

◆キーワード まちづくり 生産者と消費者をつなぐ ◆対象地域 八王子市

No.13	創価大学 勸坂ゼミ チームPAN・PAN
	規格外野菜×野菜不足の大学生 都市農業促進の観点から

◆キーワード 農業 スイーツ 地域活性化 ◆対象地域 八王子市

No.14	創価女子短期大学 水元研究室 ショウガールズ
	はちおうじ生姜力 ～八王子ショウガでHOTなスイーツを～

◆キーワード 食育 生活習慣病 農業 ◆対象地域 東大和市

No.15	東京経済大学 山本聡ゼミナール 食農班
	多摩の農トレ！ ～農業で運動を～

◆キーワード 地域復興 立川とびしまレモン イベント出店 ワークショップ ◆対象地域 立川市

No.16	明星大学 森屋ゼミ Ludique
	立川とびしまレモン支援 ファブスペースTschoolの活用と立川市内商店街のイベントを通して

規格外野菜×野菜不足の大学生

都市農業促進の観点から

まちづくり 生産者と消費者をつなぐ

◆メンバー 春日沙織、後藤花音 ◆担当教員 勤坂純市

まちづくりの目的・概要

現在、人々の野菜摂取不足は深刻化している。中でも20代の野菜不足は最も著しい。八王子市には多くの学生が住んでいるが、彼らも同様に野菜不足に直面していると考えられる。

一方、八王子市では野菜の生産が盛んである。八王子市内の農家へ調査を進めると、高い生産量を誇る反面、通常の値段で売ることが難しい規格外の野菜が採れることが分かった。現在、それらの安定した販路は少なく処理方法も限られている。

以上のことから、規格外野菜の安定した販路として野菜不足の購買層を構築する。生産者と消費者をつなぐまちづくりを行う。

効果の見通し

規格外野菜の販路として野菜不足の大学生を当てることで、農家に新しい顧客の獲得をもたらす。こうして、八王子市の特徴でもある生産者と消費者をつなぐ都市農業の促進に寄与する。

継続性の見通し

JA八王子は直売所利用者の高齢化による利用者の減少に直面している。それを踏まえ現在、農協の活動を市民に伝えることに積極的である。（例、市内の大学祭での委託販売、野菜の移動販売など）

一方、大学都市である八王子市には多くの学生が集う。野菜不足という課題を抱える20代のうち、学生に対して効果的なアプローチができる。

以上より、両者にとって大学内での野菜の販売・購入は需要と供給の一致であると考えられるため継続性が見込める。また、大学内には学生だけでなく、職員もいるため利用者の拡大が見込める。

先行研究・連携団体

JA八王子

創価大学学生ホール購買課

まちづくりのアピールポイント

私たちは犬目の園芸センターや道の駅滝山、北八王子のベジナイトに足を運び直接農家さんの声を聞いてきた。生産者の方とお話を通して、農家さんが大切に育てた野菜を、野菜不足な大学生にもっと食べてもらいたいという思いが強くなった。現在、創価大学学生ホールの購買課とJA八王子の方と4回話し合いを行い、12月の初旬を目処に大学内での野菜販売の実現に向け動いている。都内一の生産量を誇る八王子市の野菜と、多くの学生が集まる八王子市の特徴を掛け合わせることで、まちづくりに大きく貢献できると考える。

はちおうじ生姜力

～八王子ショウガでHOTなスイーツを～

農業 スイーツ 地域活性化

◆メンバー 坂口望、南咲穂、鶴居咲桜、阪井千華 ◆担当教員 水元昇

まちづくりの目的・概要

八王子ショウガを利用してスイーツを企画。目的は以下の二つである。

○八王子ショウガの魅力を広める

八王子ショウガを使ったHOT(話題)なスイーツを開発し、八王子市の幅広い世代の人に八王子ショウガの魅力を感じてもらおう。

○八王子の活性化

アンケートの結果八王子ショウガの認知度が低いことがわかった。この企画を通して八王子ショウガのスイーツを食べてもらおうことで、八王子ショウガの認知度を高め、八王子の活性化に繋げる。

効果の見通し

八王子ショウガスイーツが話題になることにより、八王子の農家の方や地域を活気づけることができる。また、八王子ショウガをスイーツにすることで、幅広い世代に馴染みやすく、話題になりやすい。

八王子市民にとっても地元の特産物の認知によって、より八王子地域に興味関心が湧くことが期待できる。お土産品として手軽に購入できるスイーツにすることで観光客も手に取りやすくなり、知名度の拡大により地域活性化に繋がる。また、副次的な効果として、店では出回らないことが多い生姜の古根を有効的に活用できる。

継続性の見通し

現時点で洋菓子店のパティスリーメゾンと提携しており、今後も継続して販売することも可能である。また、現在MICE事業に取り組む帝京大学小笠原研究室よりお土産品として購入したいとお話をいただいている。道の駅滝山での実験販売も実施し、今後は継続的に事業を展開していくために道の駅や高尾山、駅などに置いていただくなど、八王子の農産物を使ったお土産品としてより認知度をあげていきたい。

先行研究・連携団体

「はちおうじ生姜力～Women with ginger!～」(2018年度 大学コンソーシアム八王子学生発表会農業セッション 審査委員賞)「八王子ショウガがもたらす beautiful lifeー八王子ショウガを使った商品開発事業(バスボム)ー」(2018年度大学コンソーシアム八王子 学生企画事業補助金採択)

パティスリーメゾン 田中様、大学コンソーシアム八王子(2019年度 学生企画事業補助金採択)、滝山未来塾(滝山地域を活性化する市民運動団体 代表 大澤 敬之様)、八王子市農業組合(JA八王子 担当 指導経済部 地域振興課 桑原宣行様)、八王子ショウガ生産農家(加住町 村内米吉様)(小比企町 中西真一様)、創価女子短期大学プリンセスホール(食堂:株式会社グリーンハウス 松原敏夫様)

まちづくりのアピールポイント

私達チームショウガールズは5月からこの企画に取り組み、沢山の方々にご協力をいただいてここまで作り上げる事ができました。フィールドワークを重ね、自分達が持ち得ない知識や現状を学びながら、女子学生の視点で八王子ショウガスイーツを企画し、八王子の活性化に向けて活動してきました。半年間という短い期間で洋菓子店パティスリーメゾンと共同開発し、大学祭(白鳥祭)では400個完売し、道の駅では40食を3時間で完売することができました。11月16日・17日の八王子イチョウ祭でも販売を予定しています。今後、八王子市の魅力を発信できるお土産品として定着できるスイーツを開発していきます。

多摩の農トレ!

～農業で運動を～

食育 生活習慣病 農業

◆メンバー 石川萌瑠、上條将也、杉田美咲、橘尚希、廣瀬正太、二俣敏寛、吉岡久織、西川幸宏 ◆担当教員 山本聡

まちづくりの目的・概要

昨年度は食育をテーマとし、国分寺市を拠点に東大和市など近隣地域の地域資源を活かして若いファミリー層と多摩地域郊外の農家を結ぶ研究を行ってきた。今年度は全国規模で患者数が増大している生活習慣病に着目し、その予防策の1つとして地域資源である農業を用いて研究を行う。多摩地域は23区と比べ農地が多く、生活習慣病患者数が少ない。これらを活かして私たちは多摩地域の地域住民の農業への関心が高まり、農業への理解、農業の振興を図る。

効果の見通し

私たちの企画では多摩地域の地域資源である農場を利用し、運動と捉えた農作業を継続しやすい環境を作る。農作業の中の草刈り、鍬を使った畝づくり等の動作を通して生活習慣病の予防・改善に繋がる運動を行うことができ、多摩地域住民の健康増進及びそれに伴う地域の魅力の向上が見込まれる。

継続性を見通し

昨年度より交流のある東大和市の「やすい農園」は10年以上に渡り農業体験農園を運営している。そこでは農業を通じた利用者の地域コミュニティが形成されている。そこで継続的に行える活動を通して目的である生活習慣病の予防改善を図っていく。収穫だけでなく農作業を元に行っていることから作物を育てるために必要な期間も長く、リピーターも多くなるため長期的な活動が見込める。

先行研究・連携団体

「農業体験の運動効果に関する研究～ライフコーダEX着用データから～」(矢島 伸樹, 前島 文夫, 西垣 良夫 2007)を参考にしている。また、東大和市のやすいの農園へは農業体験へ行き、国分寺市のカフェといろいろびよりと国分寺市内の2つ直売所には第1回のイベントで連携した。

まちづくりのアピールポイント

多摩地域は都市農業が盛んで、住宅地の中に農家が散在していることが1つの特徴となっている。地域資源である農業を運動として捉え、一般人でも参加しやすくすることで、運動ということをあまり意識せず楽しみながら身体を動かし、生活習慣病リスクの低い健康的な生活を送ることが出来る。農業と運動という要素を結びつけ、運動の場として農園に注目したことが私たちのアイデアのアピールポイントである。

立川とびしまレモン支援

ファブスペース Tschool の活用と立川市内商店街のイベントを通して

地域復興 立川とびしまレモン イベント出店 ワークショップ

◆メンバー 酒井玲音、田村大地、平綿公亮、藤岡里奈、齋藤友芽 ◆担当教員 森屋一訓

まちづくりの目的・概要

2018年の7月、国産レモンの発祥地である広島県呉市で栽培されていた「とびしまレモン」の農地が西日本豪雨により土砂、浸水被害に遭いました。当時商業の活性化のために何か新しいことをできないか検討していた立川市は国産レモン直系種を守るため、何より市の新たな試みとしてレモンの苗木を立川へ植樹することを始めました。私たちはこの取り組みを立川市の皆さん、近隣市内の皆さんにさらに知ってもらうために立川市内にあるファブスペース「Tschool (ツクール)」と提携しオリジナル商品を企画、作成し市内のイベントにて活動を開催しました。

効果の見通し

立川レモンの取り組みを知ってもらうためにチームでオリジナルのポスター、チラシ、フライヤーを制作し積極的に宣伝を行ったので幅広い年齢層の方に見てもらうことができました。ワークショップではターゲットを子どもに絞ったことで親御さんたちの購買における心理的ハードルを下げ、なおかつ大々的に開催することによる他の子ども（親御さん）への宣伝となりそこから口コミで話題が広がったと思います。

継続性の見通し

立川とびしまレモンは立川市内に苗木を植樹したものの、収穫まではまだ年月がかかるのでこれからが重要な取り組みだと考えています。イベントで多くの方たちに紹介を行ったとはいえ、まだ知名度はそこまで高くないのは事実だと思います。しかし実際にレモンの販売にも携われたことで多くの方が手に取って説明を聞いてくださっていたのを目の当たりにしました。今後は立川レモンの育成を応援しつつ立川レモンのブランド化の告知を行なっていきたいです。

先行研究・連携団体

商品づくりに際しまして、まずは立川とびしまレモンが誕生した背景を学びました。

(<https://tachikawa-lemon.jp/>)

商品の制作にあたり立川市のもづくり創業の支援機関 Tschool を使用させていただきました。

(<https://tschool.tokyo/>)

イベントの出店スペースの確保には、まちづくり立川、立川レモンプロジェクトのご協力をいただきました。

(<https://www.tachi-machi.com/>)

まちづくりのアピールポイント

私たちのアピールポイントはファブスペースである Tschool と産学連携を取り、地域活性化につなげたことです。商品を企画し、素材の仕入れから加工、ラッピングに至るまで私たちで行いました。実際に「ものづくり」も行い、販売するなかで立川市の様々な職種、立場の方々とコミュニケーションをとり、調整を図るなどまちづくりで欠かせない貴重な経験を得ることもできました。これらの経験をこれからの活動に活かしていきたいと考えています。

第5章

講評・総評

第6回

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019

講評

401教室

専修大学商学部長 教授
渡辺 達朗 氏



課題を実行した結果、どのような成果が得られたか、その目標に対して達成されたか、課題があって、それに対してインプットをして、アウトプットが生まれて、アウトカムが出てくるようなプレゼンが構成されているか。ポスターセッションも、発表内容が構成されているものとそうでない差があったと思います。「こういう課題があり、このような目標を立てた。こんなことをやったら、このようになりました」という話は、皆さんの頭の中でそれをうまく表現できているか、できていないかで、聞いている側の評価が変わってしまいます。そこを表現すること、そのような設定をして課題に対してどう解決していくのか、どう成果が出たのかという視点から組み立ててほしいです。それが401教室とポスターセッションを聞いての全体的な感想です。

続いて、401教室の講評です。

最初の亜細亜大学の平井ゼミ、チームあおぞらは、何が目標でこのようなことをやって、どのような成果が出たのかが評価しづらいところです。やろうとしていることは分かります。幼児にプログラミング教育を実際に行っているのは、すごく面白いと思います。その成果、幼児、保護者の反応はどうだったのか、何が達成できて、課題が何かという具体的に整理されていると、より有意義な内容になったと思います。

次は、帝京大学湯川ゼミの防災班です。

防災教育で小学生をターゲットにしていますが、小学生に対してどの位の防災レベルで行ったのか、それがそのまま小学生に「知っていませんか」というアウトプットだけが出てきています。小学生に防災教育を行い、防災教育上で何を伝えるべきかの目標設定が、行政や教育委員会にはあると思います。明確でないところで「この防災ガイドブックを知っている人はいない」という結果だけが出て、防災教育がうまくいっているのか、評価がないままアンケートが出てきたことが引っ掛かりました。一連のストーリーとして少し組み立ててほしかったです。

次に、法政大学水野研究室チーム・シビックプライドです。

シビックプライドを高めるにはどうしたらよいか、八王子市はシビックプライドを高めようとして取り組まれているのですが、何が鍵でシビックプライドを高める事になるのか、どうしたら高まるのか、その分析がないまま、「散走」という話が出てきます。それをするとシビックプライドが高まる流れに繋がるということですが、前提がないままシビックプライドに繋がるどころが引っ掛かります。ストーリーを組み立てることが必要です。

最後に、明星大学EADSの多摩420万人会議です。

多摩に学生がいるのに、多摩地域で就職する人が数パーセントしかいない。もっと多摩地域の魅

力を知ってもらおうと、ジョブ力というアイデアを応用した企画自体は非常に面白いです。多摩地域の企業の魅力をどう伝えていくかという問題を、実際に企業に来てもらい、魅力を感じた学生が来るという、そのマッチングを「SNSで拡散すれば皆が集まってきます」ということで解決されてしまっています。もう一步、どのような人たちを連れてきてマッチングさせるかに踏み込むと、もっと面白くなると感じました。

共通していることは、組み立てとして、PDCAサイクルを回すことを皆さんが意識して、調査研究、プレゼン内容を考えて下さい。その企画・立案したものをパワーポイントに落とし込んでいるか、ポスターセッションでポスターに表現して伝える、オーラルコミュニケーションをとることに落とし込んでいるかが問われています。内容のないまうまく表現できればよいというものでもありませんし、内容があって初めてうまく使えるという、そのバランス、両方が両輪として備わっているところがよい評価を得ています。

402教室

国立市 政策経営課長
黒澤 重徳 氏



402教室の講評です。まず明星大学森屋ゼミのHERO'Sです。立川レモンですが、実際に収穫されていないところに難しさがあったと思います。これからレモンを収穫するので、今は認知度を上げようとしているところでした。自作のロゴのデザインが素晴らしかったので、それを使ってPRできたらよいと思います。ゼミも1期生ということで、立川レモンと共にこれからの成長が楽しみです。

次に、帝京大学石川ゼミのグリーンサイクル、シェアサイクルです。帝京大学の学生が大学に通うのに60%がバスを使っていて、不便という身近な話題を解決しようとしたのが素晴らしいです。シェアサイクルは広がってきていますので、比較的、実現可能性が高いと思います。ビジネスモデルとして今後は検討できるのではないのでしょうか。

帝京大学湯川ゼミの青梅班、青梅の活性化です。東京オリンピックが来年ありますので、これを契機にインバウンドを取り込もうというところがタイムリーでした。青梅市民と外国の方に実際にアンケートを取ったのはよかったのですが、少しサンプル数が少なかったのもう少し数があればより良かったです。外国の方には英文を作ってTwitterで呼び掛けるといった工夫ができていたのでしょうか。フィールドワークや実際に登山に行くなどの現場主義であるところもよかったです。

最後は創価大学安田ゼミのAmorさん、高齢者の社会参加ということで、さすが今年の優勝ゼミでした。企画もプレゼンも素晴らしかったです。学生から「あいさつ」などという言葉が出てくるとは思いませんでした。アンケート数も多く、実際に八王子市には売り込みも終わっているということで、完成度も非常に高かったです。プレゼンが素晴らしかったので、少し意地悪な質問をしましたが、その対策もできていたので良かったと思います。

現在、多摩地区の人口は400万人以上いて全国で10番目です。9位が福岡で10位が静岡なので、多摩地区にはそれくらいの人口があります。ただ、若い人は、多摩地区で学んでも、都心に行ってしまうたり、地元に戻られたりすると思います。せっかく多摩地区で学ばれて、多摩の課題を解決しようとしている皆さんには、まだ多摩地区に残ってもらいたいですし、戻ってきていただきたい。それがこれからの多摩地域をつくるきっかけになると思います。

405教室

明星大学 理工学部 総合理工学科 環境科学系 教授
ネットワーク多摩 常務理事
西浦 定継 氏



僕が感じたのは、非常に大事なテーマを扱ってきてくれているということです。避難所の問題も、どう解決するかということで話題になっています。LGBT、多様な生き方ができるような社会をつくらなければいけないことや、外国人の問題など、これから重要になってきます。あとは多摩の活性化です。アウトドアでシアターをやるといったことを取り上げていて、うれしかったです。テーマの取り上げ方が、今、我々日本社会が真剣に向かっているかなければいけない地球温暖化を取り上げて考えてくれたことは本当によかったです。これからも継続して後輩につないでください。反省すべき点は反省し改善していけばよいと思うので、継続して取り組むことが大事です。

406教室

おなかクリニック 理事長・院長
村井 隆三 氏



今日は皆さんがアイデアを出して、それを組み立てて、最後にプレゼンテーションまでやるという、一連の努力に心から敬意を表します。

素晴らしい発表ばかりでした。創価大学のチームPAN・PAN、14番の創価女子短期大学のショウガールズ、16番の明星大学Ludiqueに関しては、アイデアではなくて実際の成果物が出ているところで素晴らしいかったです。

チームPAN・PANは、規格外野菜を野菜不足の大学生に届けるという非常に健康的な志向で取り組んでいました。捨てられるものを、安く販売して学生の健康に役立てるといのは、素晴らしい取り組みだと思います。その規格外野菜を、1個でよいから曲がったキュウリやダイコンなどを持ってくると、更にアピールできたのではないのでしょうかと思います。

ショウガールズは、その点が完璧でした。既に八王子ショウガを使ったスイーツ成果物が出て

いるところが素晴らしかったです。プレゼンテーションの時に実際に商品を持ってこられて、味を確かめることができました。プレゼンテーションとしては完璧でした。

15番の東京経済大学食農班「多摩の農トレ！」は、農業をトレーニングとして健康づくりに役立てようという取り組みでした。生活習慣病の予防・改善につながる運動を行うことができるのはとてもよいのですが、健康指標のようなものを組み込まれると、もっとよかったのではないのでしょうか。例えば血圧が下がった、薬の量が減った、血液検査でコレステロール濃度の値が下がったなど、実際のテーマがあるとよかったと思います。

明星大学Ludiqueさんの立川とびしまレモン支援は、広島県のとびしまレモンの木を立川に持ってきて、レモン栽培を始めているということでした。レモンはまだありません。2023年に収穫予定ということですが、広島のレモンを持ってきて、「これが広島のとびしまレモンで、今、これを作ろうと頑張っています」というアピールがあるとよかったのではないのでしょうか。プレゼンの中でも、レモンがいつ食べられるのか、そのアピールがなかったです。レモンを知ってもらうポスターを作り、商品アピールしていく、そのやり方はよいのですが、実際のレモンがいつ来るのかというアピールがあると良かったです。

全体を通して、皆さんがこの貴重な体験を生かして社会人になってから活躍されること、いつの日か多摩地区に戻り、一緒に地域社会の活性化のために頑張ってもらえると、更に嬉しいです。

総評

ネットワーク多摩 専務理事
細野 助博 氏



どうしてこのテーマを選んだのか、それが大事です。「今回このテーマに関して解決策まで出したい、解決策を出すために、このテーマを選んだ」と、それが聞きたかったです。それを的確に伝えたところもありましたが、そうでないところもありました。我々は、学生の情熱が欲しいと思っています。「テーマはこの理由で選び、解決策を出す」ということを帰ってから考えてほしいと思います。

それから、ここまで育てて下さった先生方にも改めてお礼を申し上げます。審査委員の方々は、全て第一線で活躍している方ばかりです。これで終わりではなくて、「先生、こういうコメントがありましたけれども、どうでしょうか」と聞いてください。ここで終わりではありません。スタートと思っていただきたい。さまざまな分野の人がいますから、アドバイスを頂いてブラッシュアップしてください。今日の順位は今の順位です。来年、再来年、また研究を続ける、後輩にテーマを渡すかもしれません。その時に、「こうだった」と後輩に伝えて育ててほしいです。

ネットワーク多摩のミッションは人材育成を通じて地域活性化をすることです。どうか今日ご出席の皆さんには、学生たち、若い人達を育てる、その努力をなお一層お願いしたいと思います。

副市長挨拶

八王子市 副市長
木内 基容子 氏



1つだけ申し上げます。これからの自治体の職場というのは、地域の中に職員が自ら入って行って、課題をどのように解決したらよいかを一緒に探し出す、そして地域の人たちと一緒に解決する、そのようなまちづくりになります。ですから、人の一生、それから生活のあらゆる分野、どのような分野にも関わりのある仕事ができるのが自治体です。多摩の企業で働いていただく、多摩の自治体で働いていただく、そのような人材になっていただくことを期待しています。大学を出て、すぐそのまま多摩におさまらなくても結構です。まずは、いろいろな体験をしてください。多分これからの世の中は、新卒で入ってそのままずっと同じところで働くのではなく、シフトチェンジをしながら、働く場所を見つけていく時代になると思います。そういったときに行政の仕事も選択肢の中に入れていただきたい。よろしくをお願いします。

立川市 副市長
田中 良明 氏



私が学生の時と比べ、プレゼンテーションを含め、はるかに上手でした。また、課題もうまく探して掘り下げて、本当に素晴らしかったと思います。

多摩地区の人口が420万を超えているという話がありましたが、そこには、いろいろな方が住んで働いています。ポテンシャルも高いです。ぜひ多摩地域の課題をテーマとしてこれからも追いつけていただき、問題解決を図るとい、その一助となるようにこれからも努力していただきたい。私たちは応援しています。それから役所にこれからエントリーシートで申し込みをされると思いますが、この努力と苦労は絶対に役に立ちます。エントリーシートにも書いていただいて、私どものところにも出していただければと思います。

皆さまのさらなる努力と、ゼミのさらなる発展、後輩にうまくつないでいただくことをご期待申し上げて、感想の言葉とします。

**多摩市 副市長
浦野 卓男 氏**



多摩市の副市長の浦野と申します。4組のうち半分の3組が多摩市を題材にさせていただきました。

多摩市は、若い人たちの意見を行政に反映し、多摩市若者会議を3年前からやっています。3年前に何をやろうかと話をしました。提案だけではなく、実現させようということで、皆が集まる場所があったほうがよいと、家を借りて、未来の「未」に「知る」で、「未知カフェ」というものをつくり、オープンしています。そこは内装を自分たちで全てやるということで、クラウドファンディングをして、3年間くらい資金を集めて、内装を持ち寄って力を出し合って、オープンしました。「未知カフェ」は、営業は金曜日と土曜日の夜です。アルコールもあります。皆さんも、金曜日、土曜日の夜は、多摩市の「未知カフェ」に来て、他の大学生とも交流しながら、よいアイデアをつくっていただければと思います。

若者会議の人たちは、提案だけではなくて、現実に実施もしようと取り組んでいます。提案型もあれば、実際に商品を作っている、また企業や自治体との第2ステップに行っているような、いろいろな形態がありました。若者会議は、大学の学生や若い社会人の人たちが集まり、さまざまな会議を開いています。ぜひそちらにも顔を出していただいて、交流を深め、また来年のこの席上でよい提案ができる、その参考にもなると思いますので、よろしくお願いします。

**町田市 副市長
高橋 豊 氏**



町田市副市長の高橋です。私たちが学生時代の頃は、右肩上がり社会が発展した時代です。そこに生きていた人間がこれから先を考えなければいけません。今の学生さんたちは、それではない時代に生きて、生活をして育ってきています。

いろいろな提案の中で、10年後、20年後はどうなっているのか、これを想像するのが、行政で一番難しいことです。いろいろなテーマを出していただきました。全て行政における重大なテーマだと思います。10年後、20年後人口が減る中で、どのような社会になってくるだろうか、あるいは急速に発展する技術革新、ITもそうですがどのようなモビリティが変わってくるかなど、研究の中でも考えていただいて、「10年後はこういう多摩になりますよ」、「20年後はこういう多摩になりますよ」と、その中に今は何を解決しなければいけないかというようなテーマに、今後ぜひ取り組んでいただきたいと思っています。

第6回多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2019 報告書

発行日 2020年2月21日

発行 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1 明星大学20号館 6階

TEL 042-591-8540 FAX 042-591-8831

E-mail office@nw-tama.jp